

足立区環境審議会
意識啓発・行動変容専門部会
別冊資料集

- 1 第三次環境基本計画改定版の指標（世論調査回答結果）の実績と推移
- 2 現行事業における啓発の考え方と事業実施状況
 - 2-① 足立区の環境学習事業を啓発の視点で分類
 - 2-② 足立区環境情報プラザの講座を啓発の視点で分類
 - 2-③ あだち広報特集号（プラスチック分別回収）
 - 2-④ 各戸配布チラシ（プラスチック分別回収）
 - 2-⑤ プラスチック分別回収に係る世論調査（小規模調査）の結果について
（令和7年7月産業環境委員会資料より）
 - 2-⑥ あだち広報へのコラム掲載（環境コラム）
 - 2-⑦ 家計と脱炭素パンフレット
- 3 あだち若者会議（高校アウトリーチ）の意見及び方策の方向性
- 4 あだち若者会議（公募型）の意見及び方策の方向性
- 5 「きかせて！みんなのいけん（アンケート）」結果概要
- 6 上位計画の理念を反映させた柱立て
- 7 環境基本計画策定スケジュール

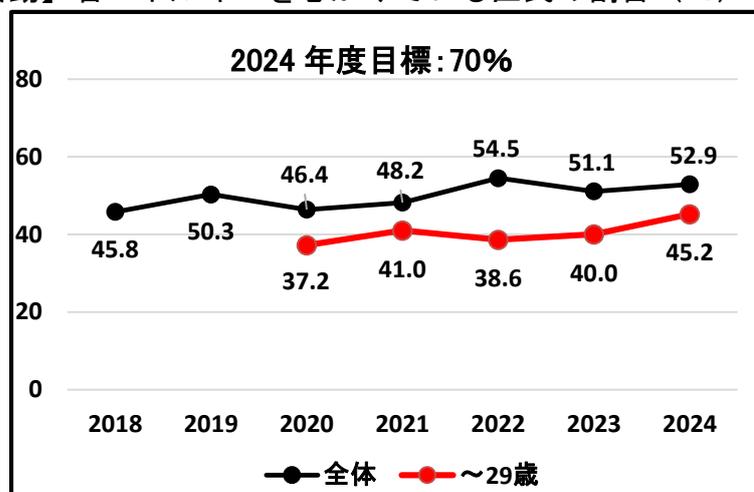
第三次環境基本計画改定版の指標（世論調査回答結果）の実績と推移

1 環境基本計画の指標で世論調査の結果が実績となっている項目

指標と単位 (◆：低減目標)		2024年度 目標	2024年度 実績 (目標達成率)	目標 達成率 前年度比	29歳以下 実績 (目標達成率)
1-1	活動 省エネルギーを心がけている区民の割合 (%)	70.0	52.9 (75.6%)	+1.8pt	45.2 (64.6%)
1-3	活動 緑化活動に実際に参加した区民の割合 (%)	17.4	23.6 (136.0%)	+7.1pt	8.1 (46.6%)
1-4	活動 河川の氾濫時の避難場所を決めている区民の割合 (%)	80.0	94.2 (117.8%)	+25.6pt	89.6 (112.0%)
2-2	活動 雑がみを燃やすごみではなく、資源として出している区民の割合 (%)	70.0	57.5 (82.1%)	+3.5pt	24.4 (34.9%)
2-3	活動 環境に配慮した製品を選んで使っている区民の割合 (%)	14.0	11.2 (80.0%)	+0.4pt	5.2 (37.1%)
3-2	成果 ごみがなく地域がきれいになったと感じる区民の割合 (%)	50.0	61.8 (123.6%)	+4.4pt	48.1 (96.2%)
4-1	成果 自然環境を大切にすることを心がけている区民の割合 (%)	40.0	26.2 (65.5%)	+2.3pt	21.5 (53.8%)
4-2	成果 まちなかの花や緑が多いと感じる区民の割合 (%)	64.4	62.6 (97.2%)	+2.6pt	60.0 (93.2%)
5-1	成果 日頃から環境への影響を考えて具体的に行動していると答えた区民の割合 (%)	80.0	69.1 (86.4%)	+0.8pt	74.8 (93.5%)

2 実績（全体及び29歳以下）の推移と2024年度実績の考察

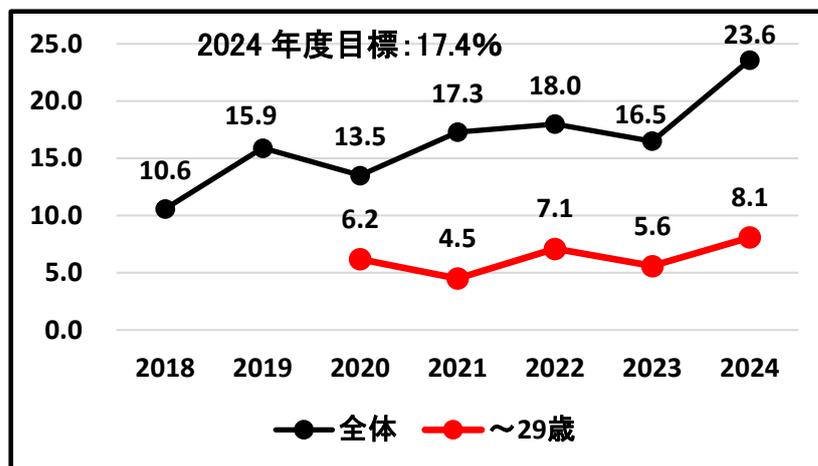
【1-1 活動】省エネルギーを心がけている区民の割合 (%)



① 年齢別では、29歳以下の年代が45.1%と最も低い結果であった。

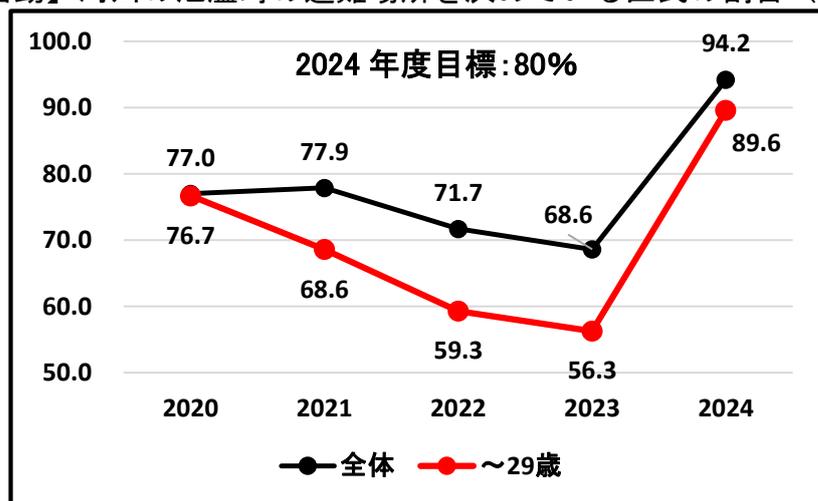
- ② 29歳以下の女性が50.6%であったのに対し、29歳以下の男性は36.5%であった。
- ③ 「環境のために心がけていること」の設問に対する回答では、ごみと資源の分別(89.0%)やマイバッグ使用(78.3%)が高く、それらに比べると省エネルギーへの意識は低い結果となっている。

【1-3 活動】緑化活動に実際に参加した区民の割合(%)



- ① 緑にあまり関心を持っていない区民が気軽に参加できるイベント開催や、花や緑の育成、保全をリードする人材育成の取り組みを進めたことにより全年齢層では実績が目標を上回った。
- ② 29歳以下を除いたほかのすべての年代では緑化活動に参加したと回答した区民の割合は目標値を超えた結果となっている。

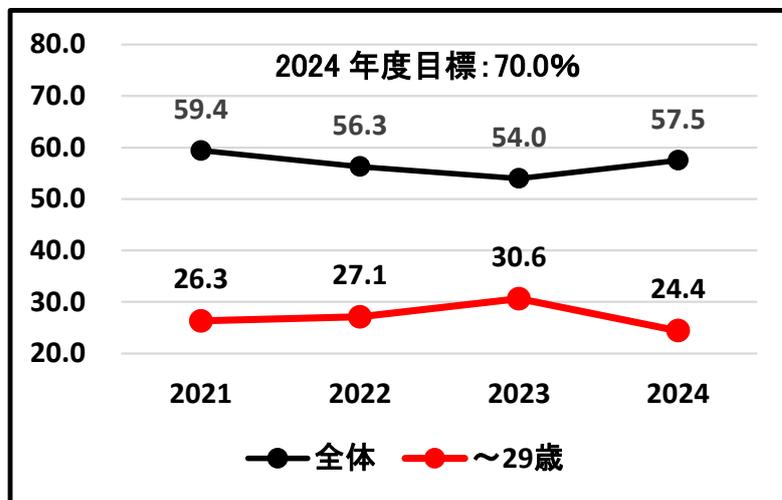
【1-4 活動】河川の氾濫時の避難場所を決めている区民の割合(%)



- ① 世論調査における設問の設定が見直されたことが2024年度の実績に影響していると考えられる。
- ② 20歳代を除く年代ではいずれも「自宅にとどまる(自宅内の高い階への移動を含む)」の回答が50%を超えているが、20歳代のみ39.3%であった。

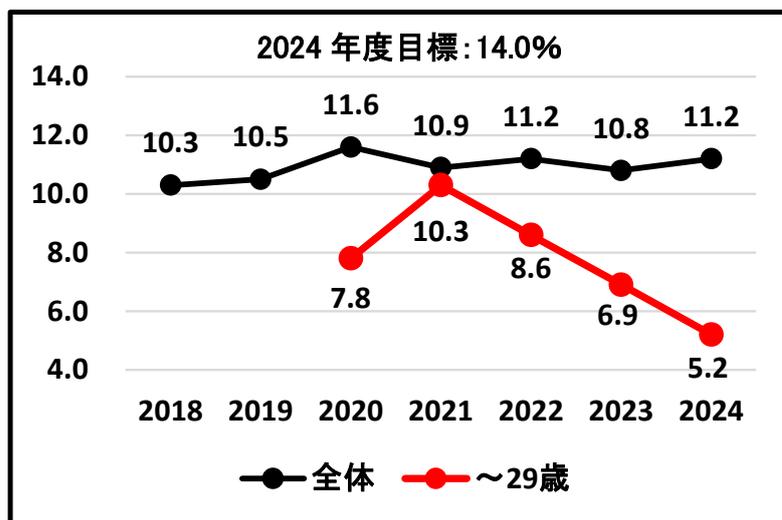
- ③ 20 歳代以下の年代では、他の年代と比べ「区が開設する水害時の避難所」と回答した割合が高かった（20 歳未満 30.8%、20 歳代 23.8%）

【2-2 活動】 雑がみを燃やすごみでなく、資源として出している区民の割合 (%)



- ① 29 歳以下及び 30 歳代が 30%以下となっており、40 歳代以上の年代と比べ取り組み状況に大きく差が出ている。
- ② 年代別のほか、居住年数によっても差が見られ、20 年以上足立区に住む方が 67%と最も多く雑がみの分別を行っているのに対し、3 年未満の方が 27.4%と最も分別を行っていないという結果となっている。

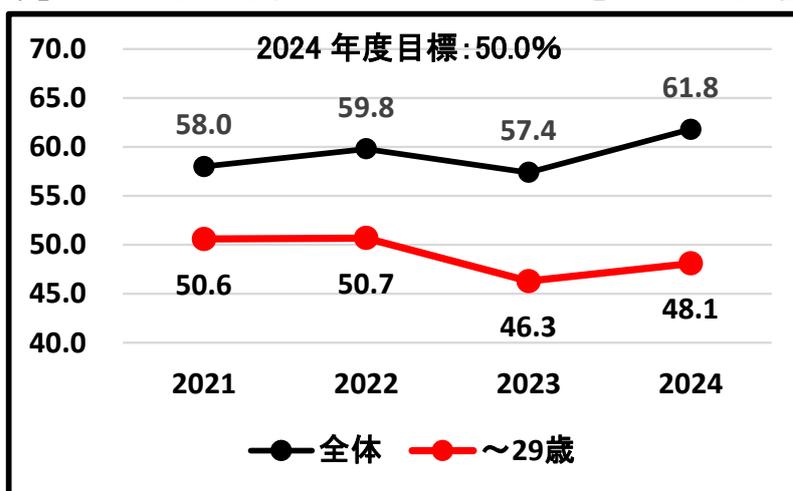
【2-3 活動】 環境に配慮した製品(※)を選んで使っている区民の割合 (%)



※ 環境に配慮した製品
 天然由来成分や環境負荷が低い素材を使用した製品
 リサイクルコットンやRマークのプラスチックを使用した製品
 エコマークや省エネマーク等が表示された商品

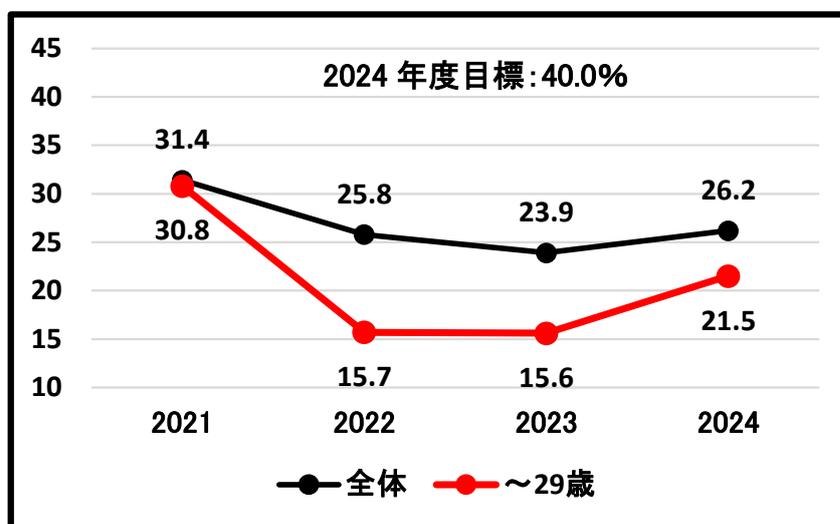
- ① 全体の実績は横這いで推移しているのに対し、29 歳以下の年代では、2021 年度以降低下し続けている。

【3-2 成果】ごみがなく地域がきれいになったと感じる区民の割合（％）



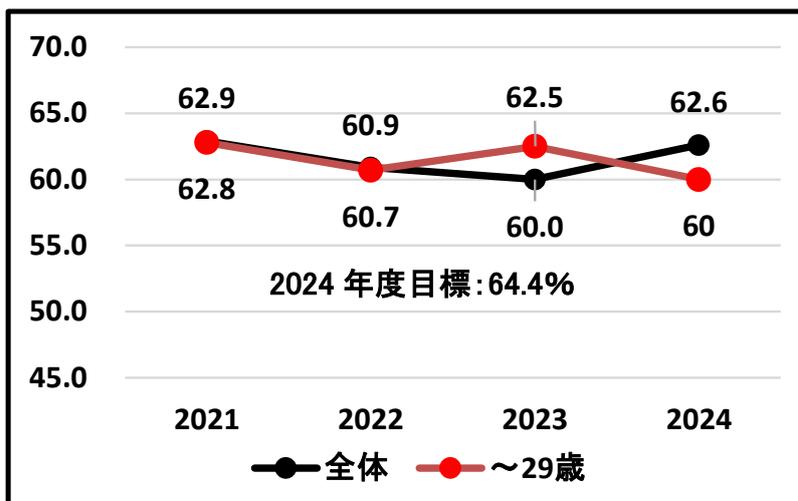
- ① 居住する地域に関する質問項目だが、地域清掃活動や不法投棄対策等取り組みの効果もあり、全年代で見ると地域がきれいになっていると感じる区民は目標を大きく上回った。
- ② 年代が上がるにつれ、きれいになったと感じる区民の割合が高くなっている。

【4-1 成果】自然環境を大切にすることを心がけている区民の割合（％）



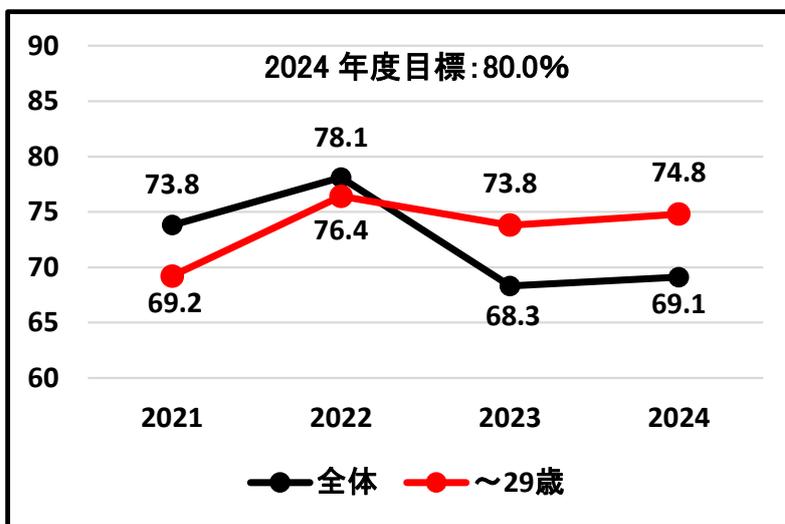
- ① 省エネルギーやごみの分別など、他の環境に関する取り組みへの意識に比べ、植物の育成や川の水質保全・改善（油や野菜くずを水道で流さない）などの自然環境を意識する人の割合は低く、目標を達成できなかった。
- ② 温暖化対策としての省エネや分別のように、具体の取り組みがイメージできるものに比べ、意識して実際に行動に移すことが難しいと感じる人が多いのではないかと考えられる。
- ③ 29歳以下の年代はすべての年代の中で最も実績が低い。年代が上がるにつれ、実績も高くなっている。

【4-2 成果】 まちなかの花や緑が多いと感じる区民の割合 (%)



- ① ほかの指標と違い、若年層それ以外の世代の回答に差が出ていない結果となっているが、自身の取り組みではなく、印象に関する設問であるためと考えられる。
- ② 年代よりも居住エリアや居住年数により差が出る傾向がある。

【5-1 成果】 日頃から環境への影響を考えて具体的に行動していると答えた区民の割合 (%)



- ① 2023 年度からは 29 歳以下の年代が、全体の実績を上回っている。
- ② 60 歳代及び 70 歳以上の年代に実績が他の年代に比べ低い結果となっている。

現行事業における啓発の考え方と事業実施状況

1 啓発の視点（考え方）

① 切れ目ない学び （大人になっても環境意識が継続できる仕組み）	幅広い年齢層を対象としたプログラムの提供により、幼少期から成人期まで段階的に環境への理解を深める機会を提供し、意識の継続を図る。
② 体験の機会 （自ら体験することで、意識に残りやすくする）	体験型の事業や、例えばゲームのような興味を惹くコンテンツを使ったアプローチなど、子ども・若者の意識に残りやすい事業とする工夫。
③ 環境への意識があまり高くない層の気付きと促し	区民の環境への意識の底上げを図るため、気候のような身近なテーマを組み込んだ講座や、落語やウォーキングなど環境以外の趣味等と絡めた事業の実施で環境意識が高くない層を取り込む。
④ 環境への意識が高い層への支援 （専門的、応用的な学びとリーダー育成）	専門家による講義や、取り組みの実践方法に関する参加者同士の意見交換を通じ、地域に環境意識や活動を広めるリーダーの役割を担う人材を育成する。

2 現行事業の分類

現在実施する事業を上記の啓発の視点ごとに分類した。

別冊資料 2-①「足立区の環境学習事業を啓発の視点で分類」、2-②「足立区環境情報プラザの主な講座を啓発の視点で分類」を参照

3 区を挙げた新たな取り組みに向けた情報発信【プラスチック分別回収】

- ① あだち広報特集号（別冊資料 2-③）
- ② 動画
- ③ チラシを各戸配付（別冊資料 2-④）
- ④ 地域での説明会実施
- ⑤ モデル事業における情報発信の課題（別冊資料 2-⑤「プラスチック分別回収に係る世論調査（小規模調査）の結果について」（令和 7 年 7 月産業環境委員会資料より）

4 その他情報発信・啓発について

(1) 環境コラム

あだち広報へのコラム連載で多くの区民の目に留まる情報発信
（別冊資料 2-⑥）

(2) 脱炭素の取り組みで家計のピンチを乗り越えましょう

家計のお得を見える化して、メリットと併せた脱炭素を啓発
（別冊資料 2-⑦）

足立区の環境学習事業(主なメニューを抜粋)を啓発の視点で分類

以下の4つの視点で分類した。

- ① 切れ目ない学び：大人になっても環境への意識が継続するよう、あらゆる世代向けのコンテンツを提供すること。
- ② 体験の機会：子どもや若者の意識に残りやすい体験を提供すること。
- ③ 環境への意識があまり高い層の気づきと促し：環境への関心が低い層に対しても、気づきを与え、行動を促すこと。
- ④ 環境への意識が高い層への支援：地域の環境への取り組みのリーダーを育成すること。

	事業名	概要	啓発の視点で分類				
			①対象者 (切れ目ない 学びの機会)	②体験の機 会	③環境への意 識が高くない 層の気づき	④環境への 意識が高い 層への支援	
1	SDGsドリルの配付	「うんこドリル」と足立区のコラボにより製作。楽しみながら学べるICT教育のはじまりの位置付け。SDGsの環境に関連する問題を5問収録。	区立小学校1～3年生		✓		
2	環境学習ワークブックの配付	ICT教育に対応した環境学習教材。SDGsや海洋プラスチックごみ問題など幅広い環境問題を取り扱っている。	区立小学校4～6年生		✓		
3	あだち環境学習サイト	環境学習専用のウェブサイト。サイトにはワークブックで取り上げたテーマに関するデジタル教材を収録。	誰でも(主に小学生)			✓	
4	あだち環境かるた大会	かるた遊びを通じて環境やSDGsについて楽しく学ぶ大会。	区内の小学生	✓	✓		
5	環境学習ツアー (栃木県鹿沼市)	日帰りバスツアーで鹿沼市での自然体験(杉板焼き体験、木製看板取り付けなど)を通じ、間伐の重要性やCO2排出削減、緑を増やすことへの意識を高める。	区内在住の小学3～6年生とその保護者	✓	✓		
6	環境学習ツアー (長野県山ノ内町)	志賀高原ユネスコエコパークでのトレッキングや星やホテルの観察、竹細工体験などを行う1泊2日のツアー。自然の豊かさに触れ、自然環境を大切にすることを意識を高める。	区内在住の小学4～6年生とその保護者	✓	✓		
7	生きものを見つけよう (バイオームアプリへの投稿)	スマートフォンアプリ「バイオーム」を使って、期間内に区内の生きものを撮影・投稿する。5種類達成で抽選でプレゼントが当たるミッション。	区民(親子での参加も想定)	✓	✓		
8	あらかわ自然体験 ウォーク	「川あるき」を充実させたスタンプラリーで、スタンプポイントで「自然観察」等のミッションを行う。アプリを使った生き物観察事業と連携予定。	区民(親子での参加も想定)	✓	✓		
9	あだち環境ゼミナール	専門家による講義や意見交換を通じて気候変動の現状と対策を深く学ぶ全6回の講座。修了者は「あだち環境マイスター」に認定され、地域の環境活動のリーダーとして活躍が期待される。	区内在住・在勤・在学の高校生以上			✓	
10	小・中学校環境学習 出前講座	「みんなで地球温暖化を防ごう！ 「緑のカーテン」の力	緑のカーテンの効果と育成方法を実演(種・苗の植え付け)で学び、環境への興味・関心を高める。	小学1～6年生	✓	✓	
11		「太陽熱エネルギーを学ぼう！」	太陽光発電と太陽熱利用の違い、太陽エネルギーの活用、地球温暖化問題などを模型製作で学ぶ。	小学3～4年生	✓	✓	
12		「おもちゃで学ぶ！SDGsナゾトキ教室	クイズや謎解きを通じ、SDGs、地球環境問題、自分たちができることを学ぶオンライン授業。	小学3～6年生	✓	✓	
13		「プラスチックごみについて考えてみよう！」～ごみを減らすために私たちができること～	プラスチックごみ問題の現状と地球温暖化への影響を学び、自分でできる活動としての「3R+Renewable」を紹介し実践を促す。	小学4～6年生		✓	
14		「PETボトルの水平リサイクル」について学んでみよう	スライドを使って、プラスチックごみ問題等現状紹介し、資源を循環させることの大切さをペットボトルを通じて学ぶワークショップ。	小学4～6年生	✓	✓	
15		「森のタンブラー」お絵かき教室	プラスチックごみ問題と資源循環の大切さを学び、森のタンブラーに絵を描き、モノを大切にすることを育む。	小学1～6年生、中学生	✓	✓	
16		「ほんとうにこわ～い！気候変動	世界と日本の異常気象、身近な植物の変化などを通じ、地球の未来のために何ができるかを考える。	小学3～6年生、中学生		✓	
17		「海の落語プロジェクト」～海ごみってな～に?落語でオモシロ楽しく学ぼう！～	海ごみ、プラスチックごみ、海の温暖化などを落語とトークレクチャーで楽しく学ぶ。	小学3～6年生、中学1～3年生		✓	
18		「SDGsで一番大切なこと	SDGsのロゴやゴールに重点を置かず、多様な人の立場を考え、自分に何ができるかを考えることで今後の行動への気づきを得てもらおう授業。	小学3～6年生、中学1～3年生		✓	
19		「てんぷら油で空を飛ばす！?SAFについて学ぼう	使用済み食用油から持続可能な航空燃料(SAF)が製造できることを理解し、廃食用油収集方法についてワークショップ形式で考える。	小学4～6年生、中学1～2年生	✓	✓	
20		「気象予報士と一緒に、大雨へのそなえを考えよう！」	気象予報士から地球温暖化による異常気象や災害の仕組みを学び、マイ・タイムライン作成を通じて避難行動を考える。	小学5～6年生、中学1～3年生	✓	✓	
21		「水処理膜と地球環境問題とのかかわり	水問題と科学技術の役割を、ろ過実験を通じて学び、身近な生活と地球環境問題のつながりを理解する。	小学6年生、中学3年生	✓	✓	
22	一般向け環境講座	「あだちの水辺調査隊 in 六木水辺の森公園	専門家と一緒に水中の生きもの探索するイベント。発見した生き物の解説を聞くことができる。	小学生とその保護者	✓	✓	
23		「セミの羽化観察会	佐野いこいの森でセミの羽化を観察するイベント。	小学生とその保護者	✓	✓	
24		「あらかわボートクルーズ	ボートクルーズに加え、荒川で採取した植物素材等を使用したクラフト体験を同時開催。	足立区民(小学生以上)	✓	✓	
25		「落語でたのしく海の環境について学ぼう！」	落語を通じて海の環境問題について楽しく学ぶ講座。	区内在住・在学・在勤の方		✓	
26		「気象キャスターと学ぶ！本当に怖い気候変動	気象予報士が気候変動の現状や暮らしへの影響を解説し、できることを考える講座。	区内在住・在学・在勤の高校生以上		✓	✓

※ 新規事業は一部タイトルを仮で設定している。

足立区環境情報プラザの講座(2024年実施の主なメニューを抜粋)を啓発の視点で分類

以下の4つの視点で分類

- ① 切れ目ない学び：大人になっても環境への意識が継続するよう、あらゆる世代向けのコンテンツを提供すること。
 ② 体験の機会：子どもや若者の意識に残りやすい体験を提供すること。
 ③ 環境への意識があまり高い層の気づきと促し：環境への関心が低い層に対しても、気づきを与え、行動を促すこと。
 ④ 環境への意識が高い層への支援：地域の環境への取り組みのリーダーを育成すること。

	講座名	概要	啓発の視点で分類			
			①対象（切れ目ない学びの機会）	②体験の機会	③環境意識が低い層の気づき	④環境意識が高い層への支援
1	Tシャツからつくる縫わないエコバッグ	古いTシャツをエコバッグとして再利用するアップサイクルについて学ぶ。	5歳以上の子どもとその保護者	✓	✓	
2	森のコルクボードを作ろう	森の自然材料を使ったものづくりを通じて、森の豊かさを実感する。	小学生とその保護者	✓	✓	
3	作って学ぼう！ボルネオ灯籠	ボルネオ島の野生動物をモチーフにした灯籠型ライトを作り、ボルネオ島の自然保護について学ぶ。	小学生とその保護者	✓	✓	
4	古布で作るブックカバー	余った布や着られない服をほどいた布で、針と糸を使わずにブックカバーを作る。	小学生とその保護者	✓	✓	
5	クラフトバンドで小物作り	古紙から作られるクラフトバンドで、かごや小物を作り、紙のリサイクルについて学ぶ。	小学生とその保護者	✓	✓	
6	レジンで荒川の草花キーホルダーをつくろう	荒川河川敷のプラスチックごみや植物を使ったキーホルダー作りを通して、海洋プラスチックについて学ぶ。	小学生とその保護者	✓	✓	
7	親子で楽しむ野鳥観察会	荒川河川敷を訪れる野鳥を観察しながら、その暮らしについて学ぶ。	小学生とその保護者	✓		✓
8	親子で行く『荒川知水資料館』見学ツアー	荒川の歴史、生き物、自然環境の保全・保護の大切さを学ぶ。	小学生とその保護者	✓		✓
9	太陽光で動くハンディ扇風機を作ろう	ソーラーパネルで動く扇風機を作りながら、地球温暖化と再生可能エネルギーについて学ぶ。	小学生（1～2年生は保護者同伴）	✓	✓	
10	水素バスで行こう！水素情報館「東京スイソミル」	水素情報館の見学や水素を作る実験を通して、水素や水素社会の将来像を学ぶ。	小学3年生～中学生とその保護者	✓		✓
11	真鍮で作るオリジナルキーリング	都市鉱山と金属リサイクルについて学ぶ。	区内在住・在勤・在学の方	✓	✓	
12	古布で作る手乗りベアうさぎ	古布のリユースやアップサイクルについて学ぶ。	区内在住・在勤・在学の方	✓	✓	
13	苔玉づくり	ハイゴケ（這苔）を使った苔玉作りと併せて植物と地球温暖化の関係について学ぶ。	区内在住・在勤・在学の方	✓	✓	
14	カナダのエコとみつろうラップづくり	カナダの環境問題への取り組みとエコグッズを紹介。	区内在住・在勤・在学の方	✓	✓	
15	アイスキャンディーせっけん作り	自然由来のグリセリンソープでせっけんを作り、エシカル消費について学ぶ。	区内在住・在勤・在学の方	✓	✓	
16	藍染手ぬぐいづくり 染料と水環境の関係	手ぬぐいの染色を通して染料と水環境の関係について学ぶ。	区内在住・在勤・在学の方	✓	✓	
17	リサイクル銀で作る純銀ペンダント	電子機器の基板から採れた銀を素材に、純銀ペンダントを作る。	区内在住・在勤・在学の方	✓	✓	
18	家庭の生ごみは…土で消える！ミニキエーロの製作と利用	微生物の働きで生ごみを分解する「キエーロ」の作り方と使い方、土と微生物の働きについて学ぶ。	区内在住・在勤・在学の方	✓		✓
19	本木ワンド保全活動体験会	多様な生物が息づくワンドの環境を整える活動を体験し、身近な河川の保全活動について学ぶ。	区内在住・在勤・在学の方	✓		✓
20	身近に潜む環境問題 生物多様性にSOS！	ボルネオ島で環境保全に取り組む講師から、生物多様性について学ぶ。	区内在住・在勤・在学の方			✓
21	近代金継ぎ体験講座	割れた陶磁器を修復する金継ぎを通して、物を捨てずに大切に使い続けることを学ぶ。	16歳以上の方	✓		✓

ADACHI CITY

SENJU JUKU
400th
since 1625

2025年(令和7年)

3月31日 第1950号

プラスチック分別回収特集号

あだち 広報

〒 足立区
〒121-0801 足立区東伊興3-23-9
☎ 3853-2141
FAX 3857-5743
✉ adachiseisou@city.adachi.tokyo.jp



回収したプラスチックの選別作業の様子

来年(令和8年4月)から区内全域で プラスチックの分別回収を開始

プラスチックは加工しやすく、私たちの生活には欠かすことのできない便利な素材です。一方で、プラスチックごみによる海洋汚染や、焼却時のCO₂発生などの深刻な問題も発生しています。

域)でプラスチック分別回収をモデル実施しており、検証の結果、ごみ減量やCO₂削減効果が確認されました。そのため、8年4月から区内全域でプラスチック分別回収を開始します。



6年4月から、区内一部地域(千住、新田、小台・宮城地

問先 足立清掃事務所 ☎3853-2141 ▲このマークが目印

資源・ごみの収集回数や収集曜日に変更になります

くわしくは裏面へ

資源・ごみの収集回数や 収集曜日が変更になります

地域別の収集曜日は決まりしだい(夏ごろ)、あだち広報や区のホームページなどでお知らせします

区内全域での
プラスチック分別回収開始日

8年4月1日(水)

燃やすごみ収集日(週3回)のうち、1回がプラスチック回収日になります。
それに伴い、燃やすごみ、燃やさないごみ、資源(古紙、びん・缶、ペットボトル)の収集曜日が変更になります。
区民の皆さまにはご迷惑をおかけしますが、ご理解・ご協力をお願いします。

	収集回数	
	現在	令和8年4月から
燃やすごみ	週3回	変更 週2回
プラスチック		NEW 週1回
燃やさないごみ	月2回	月2回
資源	週1回	週1回

回収するプラスチックと出す際の注意

プラスチック製容器包装

♻️の表示がされているカップやパック、トレイ、ボトルなどの容器や包装



プラスチック製品

すべてプラスチックでできている、文房具やハンガー、歯ブラシ、CD、おもちゃなどの製品



プラスチックごみを出す際の注意点

- 中身の見えるごみ袋にまとめ、口を結んで出してください。
- プラスチック以外の固形物(食品など)が残らない程度に、「水で軽くすすぐ」「拭き取る」「払い落とす」などにご協力ください。
※洗剤を使って洗う必要はありません。
※汚れが落ちないものは、これまで通り**燃やすごみ**で出してください。
- プラスチック以外のもの(金属など)がついている製品(電卓、カミソリ、洗濯ばさみなど)は、回収できません。これまで通り、燃やすごみ、燃やさないごみ、粗大ごみとして出してください。

プラスチック分別回収の流れ



モデル実施(千住、新田、小台・宮城地域)の効果(6年4月~12月の9カ月間)



住民説明会

■ 各地域において、住民説明会を開催いたします。ぜひ、ご参加ください。

会場	日時
千住河原町住区センター	① 1月27日（土） 14:00～
	② 2月1日（木） 19:00～
総合ボランティアセンター	① 1月30日（火） 19:00～
千住あずま住区センター	① 2月3日（土） 14:00～
	② 2月8日（木） 19:00～
千住柳町住区センター	① 2月10日（土） 14:00～
	② 2月16日（金） 19:00～
東京芸術センター 天空劇場	① 2月13日（火） 19:00～
江南住区センター	① 2月14日（水） 19:00～
	② 2月18日（日） 14:00～
生涯学習センター 講堂	① 2月24日（土） 19:00～
新田地域学習センター	① 3月5日（火） 19:00～
	② 3月9日（土） 14:00～

ご活用ください！

- 資源の出し方・ごみの出し方(プラスチック分別回収モデル地区版)ごみや資源のくわしい分け方や出し方などの冊子です。
※ 3月中旬頃、対象全世帯に配布予定です。
- 足立区ごみ分別アプリ
「ごみ分別辞典」や「収集日お知らせ機能」など
便利な機能が満載。



Android端末用 iOS端末用

「プラスチック分別回収」にご協力をお願いいたします。



【問合せ先】 足立清掃事務所
電話 03(3853)2141
受付時間 7時40分～16時25分
※日曜日、年末年始を除く

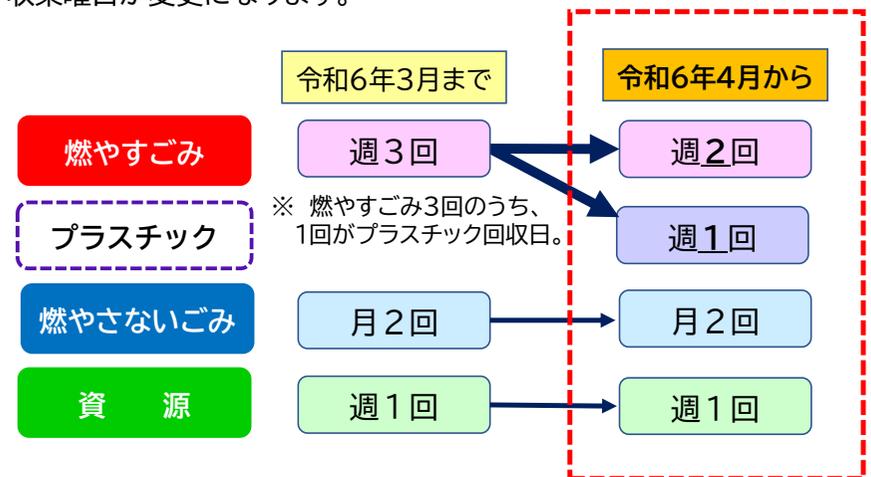
足立区からのお知らせ

千住地域、新田地域、小台・宮城地域にお住いの皆さま
令和6年4月から
「プラスチック分別回収（モデル事業）」
が始まります

足立区では、地球温暖化や海洋プラスチックなどの【環境問題】と【資源の有効利用】を目的に「プラスチック分別回収」を実施します。
「プラスチック分別回収」にあわせて、ごみ・資源の**収集回数**や**収集曜日**が**変更**になります。

収集回数と収集曜日

- 燃やすごみ収集(週3回)のうち、1回がプラスチック回収日になります。
- 燃やすごみ、燃やさないごみ、資源(古紙、びん・缶、ペットボトル)の収集曜日に変更になります。



- ※ 収集曜日に変更になります。
- ※ くわしくは、「地域別収集曜日」をご覧ください。

回収するプラスチック

■ **プラスチック製の容器や包装** …  が表示されている、カップやパック、トレイ、ボトルなどの容器や包装。



■ **プラスチック製品** …すべてプラスチックでできている、文房具やハンガー、歯ブラシ、CD、おもちゃなどの製品。

※ プラスチック以外のもの（金属など）がついている製品（電卓、カミソリ、ビデオテープなど）は、回収できません。
これまでどおり、燃やすごみ、燃やさないごみ、粗大ごみでお出しください。



プラスチックの出し方

■ **食品などの容器や包装は、残り水で軽くすすぐか、汚れをふき取る。**

※ 汚れが落ちないものは、これまでどおり「燃やすごみ」でお出しください。

▶ きれいな  (プラスチック製の容器や包装)
▶ プラスチックだけでできているもの

「中身の見えるごみ袋」にまとめて、お出しください。

水ですすいでも汚れが落ちない容器など
(例)調味料の容器など

燃やすごみ

金属を含むもの
(例)洗濯ばさみやビデオテープ、カミソリなど

燃やすごみ 燃やさないごみ

※ 材質の割合に応じて、お出しください。

一辺の長さが30cmを超えるもの
(例)衣装ケースやポリ容器(ポリタンク)など

粗大ごみ

危険物や処理することが困難なもの
(例)モバイルバッテリーやタイヤなど

※ 区では収集できません。
購入店や製造メーカー等にお問い合わせください。

地域別収集曜日

■ 収集日当日の朝8時までにお出しください。

千住 地域

町丁名	燃やすごみ <週2回>	プラスチック <週1回>	燃やさないごみ <月2回>	資源 <週1回>
千住一丁目	月・木	土	(第2・第4)金	火
千住二丁目	月・木	土	(第2・第4)金	火
千住三丁目	月・木	土	(第2・第4)金	火
千住四丁目	月・木	土	(第1・第3)金	火
千住五丁目	月・木	土	(第1・第3)金	火
千住曙町	月・木	水	(第2・第4)火	金
千住旭町	月・木	水	(第1・第3)火	金
千住東一丁目	水・土	金	(第2・第4)木	月
千住東二丁目	月・木	水	(第1・第3)火	金
千住大川町	水・土	火	(第1・第3)月	木
千住河原町	水・土	金	(第2・第4)木	月
千住寿町	水・土	火	(第2・第4)月	木
千住桜木一丁目	火・金	木	(第2・第4)水	土
千住桜木二丁目	火・金	木	(第2・第4)水	土
千住閑屋町	水・土	金	(第2・第4)木	月
千住龍田町	水・土	火	(第2・第4)月	木
千住中居町	水・土	火	(第2・第4)月	木
千住仲町	月・木	土	(第2・第4)金	火
千住橋戸町	水・土	金	(第1・第3)木	月
千住緑町一丁目	水・土	金	(第1・第3)木	月
千住緑町二丁目	火・金	木	(第2・第4)水	土
千住緑町三丁目	火・金	木	(第2・第4)水	土
千住宮元町	水・土	金	(第1・第3)木	月
千住元町	水・土	火	(第1・第3)月	木
千住柳町	水・土	火	(第1・第3)月	木
日ノ出町	月・木	土	(第1・第3)金	火
柳原一丁目	月・木	水	(第2・第4)火	金
柳原二丁目	月・木	水	(第2・第4)火	金

新田 地域

町丁名	燃やすごみ <週2回>	プラスチック <週1回>	燃やさないごみ <月2回>	資源 <週1回>
新田一丁目	火・金	月	(第1・第3)土	水
新田二丁目	火・金	月	(第1・第3)土	水
新田三丁目	火・金	月	(第2・第4)土	水

小台・宮城 地域

町丁名	燃やすごみ <週2回>	プラスチック <週1回>	燃やさないごみ <月2回>	資源 <週1回>
小台一丁目	火・金	木	(第1・第3)水	土
小台二丁目	火・金	木	(第1・第3)水	土
宮城一丁目	火・金	木	(第1・第3)水	土
宮城二丁目	火・金	木	(第1・第3)水	土

件名	プラスチック分別回収に係る世論調査（小規模調査）の結果について																						
所管部課名	環境部足立清掃事務所																						
内容	<p>令和6年4月から実施中のプラスチック分別回収を行っている地域（千住、新田、小台・宮城地域）に在住の方等を対象に、分別に関する意識について別添の世論調査を実施したので、その概要について報告する。今後の区内全域実施に向けた対応に活かしていく。</p> <p>1 調査概要</p> <p>(1) 調査の時期 令和6年9月27日（金）から令和6年10月25日（金）まで</p> <p>(2) 調査対象者</p> <table border="1" data-bbox="454 801 1481 1249"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th rowspan="2">対象者数</th> <th colspan="2">回答者数</th> <th rowspan="2">回答なし</th> </tr> <tr> <th>郵送回答</th> <th>インターネット回答</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般抽出者 ※1</td> <td>1,000人</td> <td>404人</td> <td>122人</td> <td>474人</td> </tr> <tr> <td>区政モニター ※2</td> <td>199人</td> <td>46人</td> <td>147人</td> <td>6人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1,199人 (100%)</td> <td>450人 (38%)</td> <td>269人 (22%)</td> <td>480人 (40%)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 一般抽出者：千住、新田、宮城・小台地域在住の18歳以上の個人 ※2 区政モニター：千住、新田、宮城・小台地域以外を含む</p> <div data-bbox="450 1368 1406 1957"> <p>調査対象者 1,199人 内 回答者 719人 (60%)</p> <p>郵送回答者数 450人 (38%)</p> <p>インターネット回答者数 269人 (22%)</p> <p>回答なし 480人 (40%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 郵送回答 ■ インターネット回答 ■ 回答無し </div>		対象者数	回答者数		回答なし	郵送回答	インターネット回答	一般抽出者 ※1	1,000人	404人	122人	474人	区政モニター ※2	199人	46人	147人	6人	計	1,199人 (100%)	450人 (38%)	269人 (22%)	480人 (40%)
	対象者数			回答者数			回答なし																
		郵送回答	インターネット回答																				
一般抽出者 ※1	1,000人	404人	122人	474人																			
区政モニター ※2	199人	46人	147人	6人																			
計	1,199人 (100%)	450人 (38%)	269人 (22%)	480人 (40%)																			

(3) 主な調査項目

ア プラスチック分別のモデル実施を知ったきっかけ

イ プラスチックを分別できる（と思う）程度、分別できない（と思う理由）

ウ ごみの収集曜日や分別方法などの周知方法

2 調査結果の3つのポイント**(1) プラスチック分別回収の開始の認知度**

「知っている」 : 96.1%※

（令和5年度調査では、66.3%が「知らない」と回答）

(2) プラスチックを分別できると思う程度

「ほぼ分別できる」 : 58.9%

「ある程度分別できる」 : 30.8%

(3) 分別回収のデメリット

「保管スペースが必要」 : 56.9%※

「分ける・洗う等の手間」 : 51.2%※

※ いずれも、モデル実施地域の回答

3 抽出された課題と今後の取組み（主な項目を抜粋）

次頁のとおり

4 今後の方針

課題に対する取組みを着実に実行するため、綿密な事業計画を策定するとともに、区内全域実施に向けた効果的な周知活動を行っていく。

【資料】抽出された課題と今後の取組み（主な項目を抜粋）

1 「プラスチックを分別できる」ようにするための情報発信

抽出された課題	今後の取組み
若年層（18歳～30歳代）の認知度が低いため周知の必要がある。	<ol style="list-style-type: none"> 1 若年層が集まる駅周辺地域等において情報発信等を行う（あだちスマイルビジョンやデジタルサイネージ等の利用も検討）。 2 若年層は、SNSで必要な情報を得ることが多いことから、定期的にSNSで情報発信を行う。 3 イベント等で「プラ分別クイズ」を実施する。
プラスチックに分別できるもの、できないもの、プラスチックを排出するときの注意点を、分かりやすく説明することが求められている。	<ol style="list-style-type: none"> 1 住民説明会の質疑応答の時間においては、分別に迷う製品の実物を提示して説明する。 2 プラスチックに分別される具体的な品目や、プラスチックの洗い方・出し方を、動画等を使い分かりやすく情報発信する。 3 あだち広報の記事、全戸配布する分別冊子・チラシ、住民説明会の資料等では、モデル実施における検証を踏まえ、質問の多い具体的な品目ごとの分別の仕方を掲載する。特に、どの程度汚れを落とせば良いのか等の取り扱いについては、判断基準を簡潔かつ丁寧に説明する。

2 分別できるが「手間がかかり面倒」な方への情報発信

抽出された課題	今後の取組み
プラスチックをリサイクルすることによりCO ₂ 削減が進み、環境問題への解決に繋がることを丁寧に説明し、区民の理解を促進していく必要がある。	<ol style="list-style-type: none"> 1 モデル実施の住民説明会で使用した「プラスチックリサイクルの事業展開や意義」を説明するパワーポイントを、全区展開の内容へ変更するとともに、令和5年度製作の動画をわかりやすく再編集して、住民説明会で上映していく。 2 区民のリサイクル意識を促進するため、モデル実施におけるリサイクル量やCO₂削減量など「見える成果」をあだち広報や区ホームページ等で公表していく。

3 分別に伴う「不満・不便」に向けた対応

抽出された課題	今後の取組み
プラスチック分別回収のモデル実施について理解は得られているものの、家庭内での保管方法や臭い等の対策について周知する必要がある。	<ol style="list-style-type: none"> 1 特にプラスチックの保管方法や生ごみ、紙おむつ等のおい対策については区ホームページ等に、生ごみ処理機・コンポスト化容器購入費補助金のご案内や、生ごみ、紙おむつの臭い対策を掲載する。 2 住民説明会は、区民の理解と協力をいただくために、区民の不満や不安を受け止める機会として質疑応答の時間を十分に設けていく。またその内容をQ&A一覧として次の住民説明会で資料として配布し、区ホームページにも掲出する。

あだち広報への環境コラム掲載（令和6年度）

令和6年度は毎月25日号のあだち広報に「あだち環境コラム」を連載し、区民向け情報発信を行った。

年.月号	テーマ
R6. 4	1 キーワードは脱炭素
R6. 5	2 廃食油のリサイクル
R7. 6	3 マイボトルを使おう
R6. 7	4 古紙の分類
R6. 8	5 家庭での省エネ
R6. 9	6 3R推進月間
R6.10	7 食品ロスをなくそう
R6.11	8 冬の省エネ
R6.12	9 環境学習
R7. 1	10 環境情報プラザ
R7. 2	11 資源の分別・再利用
R7. 3	12 再生可能エネルギー100%電力

掲載例（令和6年4月25日号）

あだち環境コラム

Vol.1 キーワードは“脱炭素”



地球温暖化の主な原因である温室効果ガス。そのなかでも特に高い割合を占める二酸化炭素(CO₂)の排出削減は、全世界共通の課題です。

足立区では、地球温暖化による気温上昇や豪雨被害などの悪影響を取り除くため、令和3年に「二酸化炭素排出実質ゼロ宣言」をしました。

当コラムでは「脱炭素」をテーマに、全12回にわたって情報をお届けします。

■問先=環境政策課 管理係 ☎3880-5935

CO₂排出実質ゼロ*に向けた区の取り組み

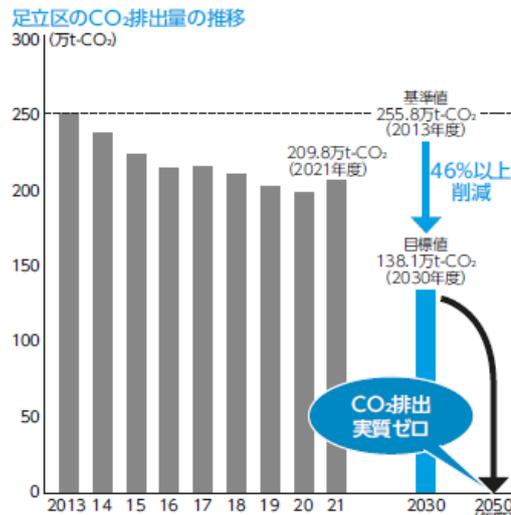
大まかに下記3つに分類できます。

- ① **区自身が行うCO₂排出削減策**
公用車の電気自動車導入／再生可能エネルギーの活用／プラスチック使用削減への取り組み など
- ② **区民や区内企業へのCO₂排出削減支援策**
環境基金を活用した助成事業／個人や事業者を対象とした省エネ・創エネ機器導入促進の補助金 など
- ③ **環境に関する意識啓発・行動変容策**
SNSなどを活用した情報発信／小・中学校などでの環境関連講座の実施／イベントでの啓発活動 など

より具体的な内容は、次号以降のコラムで紹介していきます！

足立区のCO₂排出量の推移

300 (万t-CO₂)



基準値 255.8万t-CO₂ (2013年度)

209.8万t-CO₂ (2021年度)

46%以上削減

目標値 138.1万t-CO₂ (2030年度)

CO₂排出実質ゼロ

2030 2050 (年度)

一人ひとりができることから始めよう

より多くのCO₂排出削減のためには、区民の一人ひとりの協力が不可欠です。

家庭から排出されるCO₂のうち約70%は「電気」の使用によるもの。そのため、省エネに取り組むことでCO₂排出量を減らすことができます。今回、脱炭素につながる行動をまとめたリーフレットを作成しました。簡単な省エネ方法や、お得な情報もあるので、ぜひご活用ください！



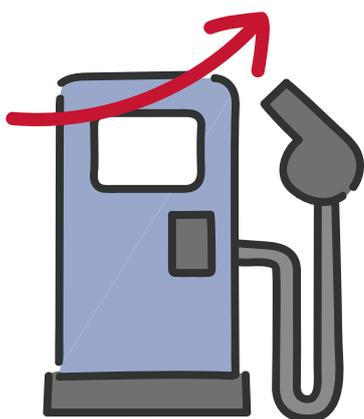
▲脱炭素リーフレット

*…CO₂排出量から、森林などによる吸収量を差し引き全体としてゼロを達成すること

光熱費をはじめとする燃料費の高騰が続き家計は大ピンチ！

このピンチ、**脱炭素に繋がる 取組み**で乗り切りましょう！

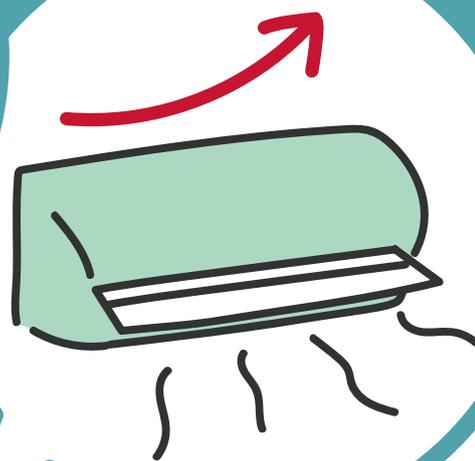
ガソリン代



食品ロス



電気代



詳しい取組みの内容は中面へ

取組みやすさを★の数で示しています。

★★★★
皆さんが今日からできる取組みです。

★★★
家電の買い替えのときはご検討ください。

★
機会がある方はご検討ください。



簡単だけど効果的な省エネ

👉 節約金額 / 年間 🌫️ CO₂ 削減量 / 年間

エアコン編

フィルターの掃除 (1～2回/月) 900円 15.6kg

1時間以上の不在時は消す (1日1時間削減)
冷房 … 580円 9.2kg
暖房 … 1,260円 19.9kg

冬の暖房時の室温は20℃を目安に 1,650円 25.9kg

冷蔵庫編

ものを詰めこみすぎない 1,360円 21.4kg

壁から適切な間隔で設置 1,400円 22.0kg

季節に合わせて設定温度を変える 1,910円 30.1kg

照明編

白熱電球をLED電球に交換する 2,790円 43.9kg

点灯時間を1日に1時間短くする
蛍光灯 … 140円 2.1kg
白熱電球 … 610円 9.6kg
LED電球 … 100円 1.6kg

給湯編

食器を洗うときは低温で 1,430円 19.7kg

入浴は間隔を開けずに入って追い炊きを減らす 6,190円 85.7kg

シャワーは不必要に流したままにしない 3,210円 28.7kg

他にもたくさん！省エネ方法！

- ・無理のない省エネ節約 (資源エネルギー庁)
 - ・家庭の省エネハンドブック (東京都環境局)
- (節約金額とCO₂削減量の出展もこちらです。)



紹介した省エネ方法の実践で、
節約できる可能性のある光熱費は **年間 23,530円**



食品の食べきり、使いきり

家庭から出される食品ロスは **年間 21,039円相当** ※1
金額にすると1人あたり

計ってみよう！家庭での食品ロス

まずはご自身がどんな食品を余らせがちか知ってみませんか？

買い物や調理のポイントはこちら

⇒「家庭での食品ロスを減らすために」(消費者庁)



それでも食品が残ってしまったときは、「フードドライブ」へ

「食品ロスを減らしましょう！」



※1 令和4年度の家庭ごみの組成調査による食品ロス推計量、令和5年3月1日現在の足立区の人口、農水省の食品価格の動向(令和5年3月13日の週)から1kgあたりの価格を算定できた32品目の平均価格より推計



燃費をよくするエコドライブ

エコドライブの実践で節約できる可能性のある燃料費は **年間 10,462円** ※2

Step1：まずは確認してみましょう

タイヤの空気圧から始める点検・整備



不要な荷物はおろそう



エアコンの使用は適切に



Step2：運転するとき心がけましょう

ふんわりアクセル「eスタート」



車間距離にゆとりをもって、加速・減速の少ない運転



減速時は早めにアクセルを離そう



Step3：運転マナーでも燃料の節約につながるがあります

ムダなアイドリングはやめよう



渋滞を避け、余裕をもって出発しよう



走行の妨げとなる駐車はやめよう



※2 COOLCHOICE エコドライブ 10 のすすめより、ふんわりアクセル、加速・減速の少ない運転、減速時は早目にアクセルを離す場合の燃費改善を、走行距離を年間6,000km、推定燃費を17.6km/L、ガソリン代を180円/L、アイドリングは30kmごとに4分間の割合で行うと仮定して推計

補助 マークの取組みには**補助事業**があります。詳しくは裏面の QR コードからホームページをご覧ください。



省エネ型製品への買い替え

補助

10年前の機器からの買換えにより節約できる光熱費は

◆エアコンで ※3 年間 **6,634円** ◆冷蔵庫で ※3 年間 **5,265～7,020円**

※3 家庭の省エネハンドブック (東京都環境局) より



補助

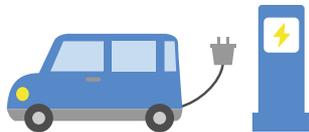
ZEV(ゼロエミッション・ビークル)への買い替え

ZEV(ゼロエミッション・ビークル)とは？

走行時に CO₂ 等の排出ガスを出さない電気自動車 (EV) や燃料電池自動車 (FCV)、プラグインハイブリッド自動車 (PHEV) のことです。

ガソリン車から電気自動車 (EV) への乗り換えで節約できる燃料費は ※4 年間 **34,792円**

※4 ガソリン車の推定燃費を 17.6 km /l、電気自動車 (EV) の平均電費を 7 km /kwh、ガソリン代を 180 円 /l、電気代を 31 円 /kwh と仮定し、年間の走行距離を 6,000 km と想定して推計



補助

太陽光発電設備の導入

- 自家消費で**電気代の節約**になります。
- 余った電気は**売ることが**できます。
- 停電時にも**電気が使えます**。



補助

住宅の高断熱・省エネルギー化

- 高性能の断熱材や窓を用いれば**冷暖房費の節約**になります。
- 省エネ性能の高い照明やエアコンの活用で**光熱費を更に節約**できます。
- 快適な住環境は、ヒートショックの抑制など**健康面にも効果**があります。

その他、脱炭素に繋がる取組み

生ごみ処理機の利用

補助

乾燥させてごみを軽く

水分を減らすことで焼却にかかるエネルギーを減らし、CO₂の排出を削減できます。

再エネ100%電力への切替え

補助

電気の契約を再生可能エネルギー 100%のプランに見直すことで、電気の使用に伴うCO₂排出を削減できます。



雑がみは資源に

燃やすごみの中には、**資源になる雑がみが9.3%***含まれています。

雑がみとは？

新聞 (折込みチラシを含む)、雑誌、段ボール、紙パックのいずれの区分にも入らないものをいいます。例えば、**投込みチラシ、パンフレット、コピー用紙、お菓子などの包装紙、紙箱、メモ用紙、ノート、封筒、手紙、ラップの芯、紙袋**などです。

雑がみの出し方

資源の日に、紙袋に入れて出すか、雑誌と一緒に束ねてひもなどで縛って出してください。

詳しくはこちら

⇒「古紙と一緒に回収される雑がみとは？」

※5 令和4年度 燃やすごみの組成調査より



脱炭素への支援

家庭用燃料電池システム（エネファーム） 設置費補助金（区）

補助額等

区内の住宅に家庭用燃料電池システム（エネファーム）を設置した方へその経費の一部を補助します。



5万円

節湯型シャワーヘッド購入費補助金（区）

補助額等

節湯型シャワーヘッドを新品で購入した方へその経費の一部を補助します。



3千円

集合住宅・事業所等 LED 照明設置費補助金 【事業者・集合住宅向け】（区）

補助額等

区内の公共的施設、中小規模事業所、集合住宅（共用部分のみ）の改修に併せてLED照明を設置する事業者へ、その経費の一部を補助します。



補助対象経費
の3分の1
上限30万円

東京ゼロエミポイント（東京都）

補助額等

省エネルギー性能が高いエアコン、冷蔵庫、給湯器、LED 照明器具に買い替えた方へポイントを付与し、ポイント数に応じた商品券と LED 割引券を交付します。



家電の
種類や機能で
異なる

電気自動車等購入費補助金（区）

補助額等

四輪の電気自動車、プラグインハイブリッド自動車、燃料電池自動車、ミニカー、並びに電動バイクを購入した方へ、その経費の一部を補助します。



左記自動車
10万円
ミニカー、電動
バイク2万円

戸建住宅向け電気自動車等用 充電設備設置費補助金（区）

補助額等

戸建住宅に電気自動車及びプラグインハイブリッド自動車への充電が可能な充電設備を設置した方へ、その経費の一部を補助します。



2万5千円

燃料電池自動車等の普及促進事業・ 電気自動車等の普及促進事業（東京都）

補助額等

燃料電池自動車（FCV）、電気自動車（EV）、プラグインハイブリッド自動車（PHEV）を導入する個人、事業者等に対して、その経費の一部を補助します。



車両区分、機能、
再エネ電力の
導入の有無等
により異なる

太陽光発電システム設置費補助金（区）

補助額等

太陽光発電システムを設置した方へその経費の一部を補助します。



補助対象
経費の3分の1
上限24万円

家庭における太陽光発電導入促進事業 （東京都）

補助額等

太陽光発電の導入に対し、東京都が実施する事業です。



建物種別、
導入容量等
により異なる

省エネリフォーム補助金（区）

補助額等

区内の既存の住宅に省エネルギー化を目的とした改修を行った方へ、その経費の一部を補助します。（工事着工前の申請が必要です。）



補助対象
経費の3分の1
上限5万円

既存住宅における省エネ改修促進事業 （高断熱窓・ドア・断熱材）（東京都）

補助額等

省エネ性に優れ、災害にも強く、健康にも資する断熱・太陽光住宅の普及拡大を促進するため、高断熱窓・ドア・断熱材への改修に対して補助します。



補助対象
経費の3分の1
上限額は導入
設備により
異なる

東京ゼロエミ住宅導入促進事業（東京都）

補助額等

東京ゼロエミ住宅*を新築する方へその経費の一部を補助します。
*「東京ゼロエミ住宅の認証に関する要綱」に基づき、都に登録された認証審査機関から東京ゼロエミ住宅認証書の交付を受けた住宅



導入する
機器の種類や
設置する
住宅の種類に
より異なる

再エネ 100 電力サポープラン協力金（区）

補助額等

電力契約を「再生可能エネルギー100%電力」メニューに切り替えた方へ協力金を支給します。



2万円

生ごみ処理機・ コンポスト化容器購入費補助金（区）

補助額等

生ごみ処理機（乾燥式・バイオ式）またはコンポスト化容器を購入した方へ、必要な経費の一部を補助します。
※令和6年3月までは上限1万5千円



本体価格の
2分の1※
上限2万円

あだち若者会議（高校アウトリーチ）の意見及び方策の方向性

1 実施目的

- (1) 現行計画の進捗における課題である「若年層の環境意識の向上と行動変容」の改善に向け、若者自身の意見を集約する。
 (2) 足立区基本計画に示された理念を反映させ、環境分野での若者の「やってみたい」を探り、支援策の検討材料とする。

2 目的達成のためのトークテーマの設定と運営

トークテーマ	目的達成へのために得る意見・情報
アイスブレイク 「最近見た環境情報は？」	【情報を得る側としての意見】 若者自身の情報獲得の場やツールを知る ➡ どこから得た情報、どのように発信された情報が印象に残るのかを深堀り
テーマ1 「プラスチック分別を実行してもらうには？」	【重点テーマを設定（※）】 「プラスチック分別回収について」 ➡ 目的（1）に示す課題解決に必要な「どうしたら若者が自らプラ分別に取り組むのか」を探る。
テーマ2 「やってみたい『環境活動』は？」	【環境活動を実行する側としての意見】 若者が考える環境分野の「やってみたい」を引き出す ➡ ① 興味関心、ハードル感について自分事の見解を聴取 ② 若者を引き付ける施策のポイントを深堀り
ゴール (得られる意見・情報)	① 若者に届き、行動変容を促す情報発信・啓発策 ② 若者自身の「やってみたい」 ➡ 環境審議会の検討材料とし、意識啓発、行動変容誘導策に反映

※ テーマを絞ってトークを展開することで、参加者から意見を引き出しやすい環境を作り、議論の深堀りが可能となる

3 意見及び方策の方向性（案）

テーマ①：最近、環境に関する情報を見ましたか？

生徒が日常生活でどのような環境情報に触れているか、またどのような環境課題を認識しているかが示されています。

分類	高校生意見	方策の方向性の提案
A 気候・気象に関する体感	<ul style="list-style-type: none"> ① 季節感の変化（春・秋がなくなった） ② 夏の暑さ ③ 気温差 	<ul style="list-style-type: none"> ① 熱中症対策、クールスポット整備 ⇒気候変動を「自分ごと」として捉えてもらうための仕組みの検討
B CO ₂ 排出	<ul style="list-style-type: none"> ① エアコン使用による CO₂ 排出 	<ul style="list-style-type: none"> ① エネルギー使用と省エネの取り組みによる効果の「見える化」 ② 気候変動対策「適応」への理解の浸透 ③ 再エネ導入支援（太陽光・燃料電池）の充実
C ごみ・プラスチック関連	<ul style="list-style-type: none"> ① 埋立地問題 ② 分別の乱れ（ペットボトルのリサイクルボックスにごみが入っているなど） ③ ストローの素材変更 ④ アルバイト先のフードロス ⑤ 生ごみ処理機の補助金 ⑥ 学校で子供服の回収を実施 ⑦ グッズ付商品のフードロスやポイ捨て ⑧ アップサイクルアプリの活用 	<ul style="list-style-type: none"> ① ごみ処理の現状とリサイクル工程の「見える化」 ② フードドライブ、フードシェアリングサービス推進 ③ プラ製品の利用削減、分別、リサイクルの推進 ④ 分別ルール周知強化 ⇒循環型社会の構築に向けた、ごみ減量・分別・リサイクルの意識向上と実践の促し ⑤ 給水スポットの普及
D 学校生活（授業・課題・オープンキャンパス）で触れた情報	<ul style="list-style-type: none"> ① フードドライブ（家庭科） ② プラスチック問題に関するディベート ③ 海洋プラスチック問題（英語の教科書） ④ スポ GOMI 体験 ⑤ 水の循環や大切さの授業 	<ul style="list-style-type: none"> ① 実践型環境教育の拡大（体験型） ② デジタル教材の積極的活用 ⇒学校教育と連携した環境学習をさらに推進し、実践的な学びの機会を増やす。

分類	高校生意見	方策の方向性の提案
E 社会・経済との関連	① 物価高、米不足、補助金、企業イメージへの影響	① エコ行動の経済的メリットの提示 ② エコ製品購入促進・補助制度周知 ⇒環境行動が経済的メリットにつながることを具体的に示し、持続可能な消費行動を促す。
F 生態系や海外の環境問題	② 発展途上国の医療環境 ③ 生態系の変化への興味	① 生物多様性の大切さの啓発 ② 国際的課題の講座等 ⇒生物多様性や地球規模の環境課題に対する理解を深める学びの機会の提供。
G その他	① 水汲みステーション（給水スポット） ② 家庭菜園や緑のカーテン ③ たばこの吸い殻で投票するゴミ箱の設置（イギリス）	① マイボトル・給水スポット拡充とマイボトル利用の更なる周知 ② 家庭緑化の支援 ⇒日常生活で実践できる具体的なエコ活動の推進。 ③ 楽しみながら実践する環境活動

傾向

情報の入手先➡①個人の実感（気温やごみの状況） ②学校や家庭 ③SNS、メディア

印象に残りやすい➡①授業や課題、体験学習による新たな学び ②「自身の生活」や「学校生活」とつながっている情報

その他

- ① 環境配慮のためとはいえ、偏った（極端な）取り組みは、消費者への我慢の強要、企業のマイナスイメージになるのでは（環境対策と経済・企業活動のバランスへの問題意識）
- ② 実践的な学びや楽しんで参加できる活動を求めている
- ③ リメイクやリサイクルへの理解や取り組みは若い世代の方が進んでいる（当たり前のもものとして受け入れている）
- ④ 日常の授業や生活の中にある環境の要素をしっかり感じ取って問題意識を持っている（教科書への記載、ペットボトルのリサイクルボックス）

テーマ②：プラスチック分別を実行してもらうには？

プラスチックの分別をテーマにどのように情報が届くと行動しやすいか示されている。

分類	高校生意見	方策の方向性の提案
A 情報発信・広報の工夫	① SNS (Instagram, TikTok, X, YouTube など) での発信 ② ショート動画 (5 秒で興味をひき、15 秒程度の尺) の発信を自分たちが拡散 ③ 動画でダンスや流行の曲の活用 ④ インフルエンサー・広告の工夫 (広告を出しすぎると嫌悪感に繋がる) ⑤ クイズ形式での啓発、文化祭などイベント連動、曲で覚える ⑥ ごみの種類の調べ方も合わせて発信 ⑦ 既存の取組み (キャップの回収) も発信 ⑧ 商業施設にポスターを掲示し、来た人に意見をもらえるようにする ⑨ 区のキャラクターを活用した PR	① SNS×音楽 ② インタラクティブ (※) 広告 ※ 双方向の情報のやり取りができるシステム ⇒若年層に効果的なデジタル媒体を積極的に活用した情報発信。 ③ 受け手 (若者) に合わせた情報発信方法の工夫 ④ 若者➡若者の発信
B 行動につながるしくみや仕掛け	① 何故分別が必要なのか仕組みや実態を視覚的に示す ② 商品券を渡すインセンティブ ③ ごみ袋に名前を書くなどルールの厳格化 ④ 商品のプラマークを大きくする ⑤ 置き場所やごみ箱の設置を増やす	① 行動による成果の「見える化」 ② エコ活動に対するインセンティブの付与

分類	高意思見	方策の方向性の提案
C 学校・生徒を活用した取り組み	① 生徒間の共有が効果的 ② 学校での取り組み（お昼の放送、朝学習、イベント連携） ③ 環境教育の習慣化	① 同世代教育の推進（教師から生徒よりも、生徒から生徒の情報伝達の方が効果が高い） ② 継続的な環境教育の仕組み ⇒学校との連携しによる環境学習や啓発活動の実施。
D 見て・体験する機会	① 実物を見せる（プラごみ、工場見学） ② 見学・体験によって「自分事」化される ③ イベントと合わせた（プラスチック分別の）説明会	① 清掃工場・施設の見学拡充 ② 環境イベントと連携した説明会 ⇒現場見学・体験学習の機会の充実。
E 家庭の影響	① 親（家庭）の習慣の影響で自然と意識が高まる	① 家庭内で環境行動が自然と実践されるような啓発資料やオンラインコンテンツ ⇒家庭で環境意識を高め、実践できるプログラムの開発。
F 制度について	① プラごみの回収頻度検討 ② 自販機のリサイクルボックスの増設	① リサイクルボックスの増設（なくす）や管理方法の検討

傾向

情報発信の工夫⇒SNS が最も多く、動画・音楽・クイズ・広告など若者らしい感覚での工夫が目立つ。

プラマークの表示の大きさ…わかりやすさ

インセンティブ…取り組みで得られるメリット

動画の長さ、情報のすべてではなく印象に残すことを重視（若者の視点）

行動喚起で重視する点⇒「見える化」と「体験」

学校や家庭での習慣の影響も大きい

テーマ③： やってみたい環境活動は？

生徒が積極的に参加したいと考える具体的な環境活動が示されています。

分類	意見	方策の方向性の提案
A 参加したいイベント・体験活動	① 清掃工場の見学、ごみ収集車試乗 ② スポ GOMI、足立区の催し物 ③ 高校生対象の環境授業、海辺のごみ拾い ④ リサイクルの過程を見える化	① 実体験型イベントの実施 ② 環境授業の実施 ③ ごみ拾いを絡めた屋外イベント実施 ⇒若年層のニーズに応える体験型の環境活動の充実。
B 学校を拠点にした取組	① 教室での掲示、学生同士で分別について呼びかけ ② 放課後ではなく授業でのごみ拾い ③ 課外授業で海辺のゴミ拾い ④ 「足立若者宣言」として実行したい活動を書いて写真をネットに掲載する	① 学校イベントでの発信協力 ② 区の情報で学内で届けるしくみ ③ 同世代教育の有効活用 ⇒学校と連携した、生徒が自分事と考えられるような情報発信の工夫。
C 日常生活で意識していること・したいこと	① エアコン節電、節水、ごみを出さない ② リサイクルの意識 ③ 緑のカーテン、家庭菜園、生物部の畑 ④ 環境マークに注目する ⑤ 潰せるゴミは潰し、そもそもごみを出さない	① 省エネ啓発、環境マーク紹介 ② リデュース・リユースの習慣化 ⇒具体的な行動の啓発による持続可能な消費行動の促し。
D 意識のきっかけ	① 埋立地の問題が「自分たちの世代に関係ある」と理解すると行動につながる ② 見える化によって記憶に残りやすい	① ビジュアルで記憶に残る啓発教材の活用 ⇒視覚的な情報発信。 ② 将来像（取り組んだ未来と取り組まない未来）と併せた姿の発信
E その他	① RICE MEDIA が YouTube や Instagram で発信している環境情報は面白いのでみんなの見てもらいたい	① 影響力のあるクリエイターを参考にした動画制作 ⇒若者に届く映像発信。

傾向

「見える化による理解」と「体験」が若者の行動変容への近道
自身が主体となる発信方法については学校をベースにしたアクション提案が多い
映像による情報発信の影響力が大きい

全体から見える傾向

- ① SNS や動画など、若者らしい情報への接し方・発信方法が重視されている
- ② 細かな情報（量）よりもまずは印象に残ることが重要
- ③ 学校・家庭・生活習慣など、身近な環境からの気付きが多い
- ④ 自ら体験することで強く印象に残り意識の変化につながる
- ⑤ 若者 ➡ 若者の発信の方がより共感を得やすい、影響が大きい
- ⑥ 「見える化」「体験」「わかりやすさ」「映像・視覚」「楽しみながら実践」がキーワード

あだち若者会議（公募型）の意見及び方策の方向性

1 実施目的

- (1) 現行計画の進捗における課題である「若年層の環境意識の向上と行動変容」の改善に向け、若者自身の意見を集約する。
- (2) 足立区基本計画に示された理念を反映させ、環境分野での若者の「やってみたい」を探り、支援策の検討材料とする。

2 目的達成のためのトークテーマの設定と運営

トークテーマ	目的達成へのために得る意見・情報
アイスブレイク 「最近見た環境情報は？」	【情報を得る側としての意見】 若者自身の情報獲得の場やツールを知る ➡ どこから得た情報、どのように発信された情報が印象に残るのかを深堀り
テーマ1 「プラスチック分別を実行してもらうには？」	【重点テーマを設定（※）】 「プラスチック分別回収について」 ➡ 目的（1）に示す課題解決に必要な「どうしたら若者が自らプラ分別に取り組むのか」を探る。
テーマ2 「やってみたい『環境活動』は？」	【環境活動を実行する側としての意見】 若者が考える環境分野の「やってみたい」を引き出す ➡ ① 興味関心、ハードル感について自分事の見解を聴取 ② 若者を引き付ける施策のポイントを深堀り
ゴール (得られる意見・情報)	① 若者に届き、行動変容を促す情報発信・啓発策 ② 若者自身の「やってみたい」 ➡ 環境審議会の検討材料とし、意識啓発、行動変容誘導策に反映

※ テーマを絞ってトークを展開することで、参加者から意見を引き出しやすい環境を作り、議論の深堀りが可能となる

3 意見及び方策の方向性（案）

テーマ①：最近、環境に関する情報を見ましたか？

分類	若者の意見	方策の方向性の提案
A ゴミ分別	① 細かい分別に対する負担感や不安感 ② 幼少期の愛知万博での詳細な分別体験と現在の分別品目の少なさとのギャップ	① 写真やショート動画での発信 ⇒分別ルールを視覚的、直感的に分かりやすく伝えるための発信方法
B プラスチック問題	① 世界規模の海洋プラスチック問題 ② マイクロプラスチックの健康影響に対する関心	① 環境と健康の関連性を強調した情報発信 ⇒環境問題が個人の健康や日常生活と密接に関わる「自分ごと」であるという認識を持ってもらう工夫
C 区補助金	① コンポストの補助金を知り関心が高まるも、手間や臭いへの不安があり実行に移せない	① 周知（知ってもらう）とは別に丁寧な利用法の発信（動画） ⇒取り入れる際のハードル感をなくす
D 温暖化・環境問題	① 地球温暖化によるホッキョクグマの生息地減少② 沖ノ鳥島の水没危機に対しサンゴの自生拡大で土地を広げる取り組み ③ 合成洗剤から純石鹼に替えることによる生活排水の改善 ④ 自動車排ガスと温暖化への理解、EV への期待	① 環境問題に対する具体的な解決策と区民の行動の関連付け ⇒生活排水の改善、EV 導入など、個人が取り組める具体的な行動が地球温暖化対策にどう貢献するかを分かりやすく示す
E ポイ捨て問題	① 街中や荒川に不法投棄されたごみの増加を実感、清掃活動の限界を感じている	① 見守りの体制構築と併せ「ポイ捨てをしない」意識の醸成

分類	若者の意見	方策の方向性の提案
F 環境配慮の実践例	<ul style="list-style-type: none"> ① マイバック、マイボトルの活用 ② インセンティブ（金券、ポイント）による行動の変化（例：店舗に使用済み品を持ち込む） ③ ウォーターサーバーの利用 ④ シェアサイクルやリモート活用 ⑤ エコマーク商品購入意識の高まり ⑥ フードドライブやフードバンクを通じた食品ロス削減の取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> ① 「新たなライフスタイル」としての提案 ⇒ウォーターサーバー シェアサイクル リモートワーク <p>既に区民が実践している環境配慮行動を「環境にやさしく、かつ快適でメリットのあるライフスタイル」として積極的に発信、推奨</p>
G その他	<ul style="list-style-type: none"> ① 環境が守られている国や地域では、幸せな国のランキングも上がり、犯罪数も減少する傾向にある ② ウミガメを保護するための費用が不足しツアー参加費の上乗せで賄う等環境保護による観光への影響（地域経済と環境保護の両立） 	<ul style="list-style-type: none"> ① 環境と「ウェルビーイング」の関連性を明確化して発信 ⇒環境保全が個人の幸福感と社会の持続的な発展に繋がることを、具体的な事例（幸福度ランキング、犯罪率など）を交えた啓発 ⇒環境活動が「我慢」ではなく「よりよい未来を創るポジティブな選択」であるというメッセージ

傾向

参加者は環境問題に強い関心を持ちつつも、「手間がかかる」ことへの抵抗感が行動の障壁となっている。負担感を和らげる丁寧な説明とともに、インセンティブの付与などを効果的に活用することで行動変容につながる。

環境問題を「自分事」として認識し、健康や日常生活との関係性を意識する傾向も強まっている。YouTube などの多様な情報源も関心の高まりに寄与しており、身近な取り組みは実践されやすい一方、ゴミ分別の現状への不安なども見られた。また、環境と幸福度の関係に着目するなど、若者の意識の広がりも確認できた。

テーマ②：プラスチック分別を実行してもらうには？

分類	若者の意見	方策の方向性の提案
A 現状の課題認識	① 開始時期等、周知不足 ② 可燃ごみの収集回数減や分別ルールへの不安	① SNS (TikTok 等ショート動画)、駅のデジタルサイネージなど若者が多く目にする媒体を利用した周知 ② Q&A 形式で分かりやすい情報を提供し、オンライン等相談窓口の充実 ⇒不安を解消させる発信とサービス体制
B 分別ルールの理解	① 回収対象、洗浄の必要性、大型のプラ製品の扱いなどの周知の必要性	① イラストや写真、動画を多用した「分別ガイドブック」をウェブコンテンツで分かりやすく提供 ⇒継続的に実施してもらうための工夫
C 習慣化の可能性	① 厳格なルールの設定（ゴミ袋に記名など） ② 実践により慣れていくことで日常化していく ③ プラマークでの判断経験	① chatbot 等分別支援ツールの導入 ⇒継続的に実施してもらうための工夫

分類	若者の意見	方策の方向性の提案
D 若者向け啓発策	① 家庭向け広報より大学や企業へのアプローチ ② 定期的な専用袋の配布 ③ リサイクルの成果の「見える化」 ④ TikTok 等でのショート動画広報、インフルエンサー活用 ⑤ 分別競争イベント、金券配布などのインセンティブ導入 ⑥ ゴミ処理見学等、現場を見て理解を深める取り組み ⑦ 駅のデジタルサイネージの活用 ⑧ CO2 削減の重要性、自身の健康への影響を理解させる教育	① 商工会議所等を通じた各事業所への周知協力依頼 ② 大学や企業と連携し、学園祭や新任研修時に脱プラチャレンジの展示や環境分野のワーク等を実施 ③ 資源化過程の動画、見学会 ④ 環境貢献を具体的な数値や事例（分別によって削減された CO2 量や再利用されたプラスチック製品など）を用いて定期的に公表 ⑤ 駅のデジタルサイネージで、短く視覚的に訴求するコンテンツを放映 ⇒若者の生活圏へのアプローチ
E 教育現場との連携	① 学校での環境教育、実験体験、コンテスト ② 高校生向けに、大学との連携プログラムで環境に関する専門的な授業や実験体験の提供	① 大学と連携し、専門性の高い環境学習プログラム（実験やフィールドワーク）の提供 ⇒環境問題と合わせて、大学生活を経験するメリット
F ゴミ箱の改善	① 音や光、ゲーム性などを活用した楽しいゴミ箱の提案	① 街中にインタラクティブなゴミ箱を試行導入 ⇒日常に楽しみながら取り組める仕組み
G ごみ削減意識	① そもそもごみを出さない生活スタイルの推進	① マイバック、マイボトルの更なる利用促進 ② 食品ロス削減（フードドライブ、フードバンクの周知・推進） ③ 量り売り店舗の推奨 ④ 生ごみ処理機やコンポストの普及 ⇒「新たなライフスタイル」として具体的な選択肢を提示

傾向

若者や単身者世帯へは大学や企業などコミュニティ単位での働きかけが有効。

「手間」への心理的ハードルがある一方、習慣化することで取り組みが継続できるとの考え方も持っている。

行動変容には、金銭的インセンティブやゲーム性、SNS を活用した楽しく視覚的な情報発信が有効であり、また、環境改善の成果を「見える化」することで納得感を高めることができる。

さらには「分別」だけでなく、「ごみを出さない」という視点での意見も出ていた。

テーマ③： やってみたい環境活動は？

分類	若者の意見	方策の方向性の提案
A 参加・主催したいイベントや体験活動	① ゴミ処理施設見学 ② ゴミ拾いウォークラリー ③ 公園等での植樹体験イベント ④ 手軽な服の交換会 ⑤ 区内美化運動への参加 ⑥ 環境問題の現場視察、生活排水の浄化実験など学びのツアーや発信 ⑦ CO ₂ を浄化するために必要な木や土の量を体験できるイベント	① ゴミ処理施設見学や環境問題現場の視察、生活排水の浄化実験など、体験型学習ツアーや VR 動画の提供 ② 環境イベント等体験の場の創造 ⇒「見る」「知る」ことで、関心度を高める
B 日常生活で意識していること・したいこと	① 家庭で楽しめるゴミバスケや家庭菜園 ② 廃食油の回収 ③ 生ごみ処理機やコンポスト	① 「おうちでエコ」アイデアの紹介 ⇒区民が日常で気軽に取り組めるよう奨励
C 区に期待すること	① 廃食油回収へのポイント付与など、継続的に参加できる仕組み ② 住民が気軽にゴミ拾いをして集積できる「ゴミ回収スポット」の常設設置	① インセンティブ制度の導入検討 ② 利便性の高いゴミ回収インフラの整備 ⇒継続的な取り組みの動機付けとなる仕組みを構築する。

傾向

環境問題を見学や動画により「見る」「知る」、参加し「体験」することで意識を高まると考えている。

ゴミ拾いや清掃にゲーム性を加えることで参加意欲が高まる。

誰でも「手軽に」関われる仕組み（例：服の交換会や回収スポット）を整えることが重視されている。

また、情報発信のあり方では、行政による一方的な伝達ではなく、若者自身が情報発信者として関与する発信方法についても提案された。

環境問題をポジティブに捉え、楽しみながら参加できるような効果的な制度設計の必要性を求めている。

全体から見える傾向

若年層の環境意識は高いものの、行動に移すには「手間」や「情報不足」などの障壁が存在しており、取り組みに対しインセンティブや楽しさを求めている。

また、SNS や動画を活用した短く印象に残る発信が効果的であることや、「成果の見える化」、「体験」、「見学」により理解が深まることで、行動変容につながりやすくなると考えている。

大学・企業・地域などの若者が在籍するコミュニティを巻き込んだアプローチも有効と考えられる。

「分別」だけでなく、ゴミを出さないライフスタイルへの転換、環境への取り組みをポジティブで自分事として捉えられる情報や啓発の仕組みづくりが求められている。

- ① 身近な問題、「自分ごと」として感じてもらうことで積極的に取り組むことができる。
- ② みんなで取り組む、参加型の活動とする工夫が必要。
- ③ 楽しみながらできる活動とすることで若者を巻き込むことができる。
- ④ 日常生活の中でルール化する（例：学校のルールで分別していれば家でも自然に取り組むことができる）。

「きかせて！みんなのいけん（アンケート）」結果概要

【アンケート実施期間】 令和7年5月8日～6月22日

【回答者数】

こども（小・中学生）	未就学児の保護者	高校生・若者
126人	24人	25人

1 こども（小・中学生）からの回答

(1) 学年別回答者数

学年	回答者数	構成比	学年	回答者数	構成比
小学1年生	0人	0%	小学6年生	40人	32%
小学2年生	26人	21%	中学1年生	14人	11%
小学3年生	2人	2%	中学2年生	3人	2%
小学4年生	6人	5%	中学3年生	3人	2%
小学5年生	28人	22%	合計	126人	100%

小学2年生、5年生、6年生からの回答が多くありました。小学1年生からの回答が無かったのは、学校配布のタブレットの使用がまだ定着していなかったためと考えられます。

(2) 環境を守ることへの意識について

ア 地球の環境を守ることは大切だと思いますか。

項目	回答者数	構成比
とても大切だと思う	108人	86%
大切だと思う	17人	13%
あまり大切だと思わない	1人	1%

イ 地球の環境を守るために、自分にできることをしたいと思いますか。

項目	回答者数	構成比
とてもしたいと思います	68人	54%
簡単にできることならしたいと思います	56人	44%
あまりしたくないと思う	2人	2%
少しもしたくないと思う	0人	0%

「あまりしたくない」と思う理由（複数選択可）

- ・面倒くさいから
- ・自分だけがやっても意味がないと思うから
- ・何をすればいいかわからないから

(3) 地球の環境について、どんなときに思い出したり考えたりしますか。(複数回答可)

項目	回答者数	構成比
学校の授業で環境のことを学んだ時	81人	64%
環境の問題を紹介したテレビ番組を観たとき	61人	48%
大雨や台風などニュースを観たり聞いたりしたとき	52人	41%
夏にとっても暑い日が続いたとき	48人	38%
環境を学ぶイベントに参加したとき	41人	33%
そのほか	14人	11%
特に考えたことは無い	9人	7%

「そのほか」の意見(自由記述)

- ・紙製品を使ったり、木の製品を使うとき
- ・任天堂スイッチのYouTubeで宇宙とか地球のことを話しているひとの動画を見たとき
- ・歩道や車道などにゴミが落ちていたとき
- ・自然公園や森、山や海などに自然観察をしたとき
- ・ママにお水を大事にしないとなくなっちゃうよとか言われた時
- ・海岸のゴミ拾いボランティアに参加したとき

(4) 地球の環境に問題があるといわれたとき、まず思い浮かべるのはどんなことですか。

(複数回答可)

項目	回答者数	構成比
地球の気温が上がっていること	91人	72%
海ゴミやマイクロプラスチックのこと	68人	54%
生き物が減ったり絶滅したりすること	66人	52%
ゴミを減らさないといけないこと	57人	45%
食べ物がたくさん無駄になっていること	50人	40%
とくに思い浮かばない	5人	4%
そのほか	4人	3%

「そのほか」の意見(自由記述)

- ・森林破壊
- ・未来の暮らしなど、何年後かのこと
- ・異常気象、酸性雨、土地の砂漠化

(5) 家族や友達と、地球の環境について話したことがありますか。

項目	回答者数	構成比
よく話をする	26人	21%
たまに話をする	42人	33%
話をしたことはある	36人	29%
話をしたことがない	22人	17%

- (6) あなたが考える「環境にいいこと」は、どんなことをすることだと思いますか。
(複数回答可)

項目	回答者数	構成比
電気やガス、水を大切に使う	107人	85%
ごみを減らす	86人	68%
生き物を大事にする	76人	60%
食べ物を無駄にしない	75人	60%
川や海をきれいにする(掃除する)	71人	56%
まちの中に木や花をたくさん植える	55人	44%
そのほか	6人	5%

「そのほか」の意見(自由記述)

- ・火力発電をやめて、再生可能エネルギー等々を使って発電するなど。(太陽光・風力・地熱・水力) など。
- ・街のゴミを積極的に拾う活動も足立区などが開催してほしい。
- ・家に太陽光パネルをつける。

- (7) 地球温暖化について

ア いま地球の気温が高くなってきていることを知っていますか。

項目	回答者数	構成比	(内、小学6年生以上)	
			回答者数	構成比
知っている	110人	87%	58人	97%
聞いたことはある	11人	9%	2人	3%
知らない	5人	4%	0人	0%

イ 地球が熱くなってきているのは、空気中の二酸化炭素が増えているからといわれていることを知っていますか。

項目	回答者数	構成比	(内、小学6年生以上)	
			回答者数	構成比
知っている	90人	71%	56人	93%
聞いたことはある	19人	15%	4人	7%
知らない	17人	14%	0人	0%

(8) あなたが、普段していることや、したことがあることを教えてください。(複数回答可)

項目	回答者数	構成比
ごみを分けて捨てる	92 人	73%
テレビやゲーム、パソコンは使っていない時は消す	92 人	73%
使っていない部屋の電気は消す	89 人	71%
マイボトル（水筒）を持ち歩く	89 人	71%
買い物に行くときにエコバッグを持って行く	87 人	69%
お風呂に入るときや歯を磨くときに水を出しっぱなしにしない	87 人	69%
使わなくなった服やおもちゃを必要な人にあげる	71 人	56%
部屋を暖め過ぎたり冷やしすぎたりしないで、着る服を変える	58 人	46%
外に落ちているごみを拾ったことがある	49 人	39%
そのほか	3 人	2%
特になし	3 人	2%

(9) どんなことがあれば、地球の環境を守るために、できることをしたいと思いますか。
(複数回答可)

項目	回答者数	構成比
友達や家族と一緒に楽しくやってみることができる	89 人	71%
ポイントが付いてプレゼントと交換できる	68 人	54%
自然の中でたくさん遊べるようになる	66 人	52%
いろんな生き物のことを知ることができる	59 人	47%
頑張ったことを発表したり表彰してもらえる	44 人	35%
新しい友達が増える	37 人	29%
そのほか	5 人	4%

「そのほか」の意見（自由記述）

- ・プレゼントの具体的内容（賞金・グッズなど）
- ・色々なイベントに安くまたは無料で参加できる
- ・環境を知れるところのスタンプラリー

(10) あなたが大人になったときに、しようと思うことはありますか。(複数回答可)

項目	回答者数	構成比
電気を大切に使う	105 人	83%
水を大切に使う	94 人	75%
ごみをポイ捨てしない	92 人	73%
ごみを分けて捨てる	90 人	71%
エコバッグ、マイボトル(水筒)を使う	88 人	70%
食べ物は食べきれ的分だけ買う	87 人	69%
使い捨てを減らす	67 人	53%
エコマークのついた商品を買ったり使ったりする	59 人	47%
植物をそだてて緑を増やす	58 人	46%
車を使わず、電車やバスを使う	44 人	35%
まちのごみ拾いに参加する	42 人	33%
そのほか	6 人	5%
特にない	2 人	2%

「そのほか」の意見(自由記述)

- ・子どもたちが楽しめる環境に関するイベントを開いてみたい
- ・環境大臣になって、まずは日本の環境についての法律を変えたい。
- ・石油文明のあとに「もったいない文明」を創造する

(11) あなたが、地球環境を守るためにみんなにして欲しいことがあれば教えてください。

(自由記述)

寄せられた意見を、テーマごとに分類してまとめました。

ア まちなかのごみやポイ捨てについて
<p>公園や街中でのポイ捨て、地面のガムなど、日常的に目にするごみ問題への不満や改善を求める声が多く挙がりました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴミはポイ捨てをしないで、分けてゴミ箱に捨てる(同一意見多数) ・捨てるのがめんどくさいからといって適当に投げてそのままにしないでほしい ・毎日ゴミ拾いをしてほしい ・街にゴミが落ちていたら、見て見ぬふりをしないで自分から拾ってほしい ・学校の授業でゴミ拾いの活動をする ・ゴミ箱をもっと作って下さい

イ まちの緑化や自然環境の保護について
<p>まちのなかの緑化を推進して欲しいという意見が多く挙がりました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路の横に木を植えてほしい ・自然豊かな大きな公園を作って欲しい ・自然を大切にしたいので、木を切りすぎないでほしい ・植物を増やす取り組み ・学校で植物を増やす授業をする ・苗木の値段を安くしたり、複数買うとお得になるようなシステムがあるとみんなやると思う ・生きものをもっとふやしてほしい ・どうぶつをまもること ・木の家を積極的に作って欲しい
ウ 食品ロスについて
<p>食べ物を粗末にしないという意見も多数ありました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食べ残しがないようにしてほしい（同一意見あり） ・食べきれぬ分だけ買ったり、食べたりする ・食べ物を作るのは、いろいろな人が関わっていて沢山の命が奪われて作られているから、その事を忘れないで食べ物を粗末にしないでほしい
エ エコライフの実践と普及
<p>具体的に取り組んで欲しい行動が多く挙げられました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エコバッグで買い物をするやマイボトル（水筒）を持ち歩くは簡単にできるからみんなにしてほしい（同一意見あり） ・電気、水、ガス、を大切に使う（同一意見あり） ・ソーラーパネルをいっぱい作ってください ・二酸化炭素を多く出す車を使用するのはなるべく、避けて電車やバスを利用してほしい ・長く使えるものを買う、使う
オ 意識啓発と教育の重要性
<p>「地球の環境問題を知ったり、関心を持ったりしてほしい」という声が多くありました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関心を持つための動画、授業をしてほしい ・もっとテレビやネットで、環境問題を取り上げて、身近な生活の一部が環境に優しくなるように活用できるようにしてほしい ・環境についてほんとに正しいのかを学校で講演会を開くなどして教えてほしい （例：紙ストローは本当に環境のためになっているのか、地球温暖化は二酸化炭素がすべて原因なのか） ・子どもから高齢者までが楽しめるイベントを作って沢山の人が参加してほしい ・学校の年間行事として地域清掃を取り入れたり木を植える場所を作って木を植えるようなプロジェクトを始めるのもいいと思う

カ 社会全体での取り組みの必要性

多くの主体が行動をすることを求める意見が挙げられました。

- ・「何人か」が環境を守るために何かをするのではなくて「みんな」が環境を守るために、節電や節水、食べ物の無駄遣いをしないようになってほしい
- ・ポイ捨てや、地球に悪いことは絶対にやらないでほしい。地球を大切にしてほしい（同一意見あり）
- ・Sdgsを守る
- ・みんなと仲良くしたり、みんなで助け合ったりしてほしい

2 未就学児の保護者からの回答

(1) 年代別回答者数

年代	回答者数	構成比	年代	回答者数	構成比
10代	0人	0%	50代	0人	0%
20代	2人	8%	60代以上	0人	0%
30代	16人	67%	無回答	0人	0%
40代	6人	25%	合計	24人	100%

保護者からは24名の回答がありました。半数以上が30代で16名でした。

(2) お子さんと地球の環境について話をすることはありますか。

項目	回答者数	構成比
よく話をする	1人	4%
たまに話をする	6人	25%
一度でも話をしたことはある	7人	29%
話をしたことはない	8人	33%
覚えていない	2人	8%

(3) お子さんには、地球にやさしい行動をとって欲しいと思いますか。

項目	回答者数	構成比
とてもそう思う	13人	54%
そう思う	6人	25%
少しそう思う	5人	21%
あまりそう思わない	0人	0%
全くそう思わない	0人	0%

(4) 地球の環境について意識するのはどんなときですか。(複数回答可)

項目	回答者数	構成比
猛暑日などが続いたとき	17人	71%
環境にまつわるテレビ番組等をみたとき	16人	67%
気象災害のニュースに触れたとき	15人	63%
環境にまつわるイベント等に参加したとき	6人	25%
そのほか	2人	8%
意識したことがない	1人	4%

(5) 環境問題と言われたとき、思い浮かべるのはどんなことですか。(複数回答可)

項目	回答者数	構成比
地球温暖化	19 人	79%
ごみのポイ捨てや増加について	17 人	71%
海ごみやマイクロプラスチックについて	16 人	67%
食品ロス	12 人	50%
生物多様性（種の減少や絶滅）について	12 人	50%
とくに思い浮かばない	0 人	0%
そのほか	0 人	0%

(6) 環境にやさしい行動をするため、少し不便になったりお金がかかったりする場合、あなたの考えに近いのはどれですか。(複数回答可)

項目	回答者数	構成比
やりたい気持ちはあるが、お金がかかることはできないと思う	14 人	58%
やりたい気持ちはあるが、不便なことは続けられないと思う	11 人	46%
少しの不便やお金がかかっても環境を守るためにやると思う	7 人	29%
不便になったりお金がかかったりする場合は、やりたくないと思う	1 人	4%
そのほか	0 人	0%

(7) 区が実施する環境に関するイベントに参加されたことはありますか。(複数回答可)

項目	回答者数	構成比
参加したことはない	18 人	75%
A-Festa 等の区のイベントで、環境に関する出展ブースに立ち寄ったことがある	4 人	17%
地域学習センター等で実施する、環境に関する講座やワークショップに参加したことがある	2 人	8%
屋外で実施する環境イベント（環境学習ツアー、自然体験デーなど）に参加したことがある	1 人	4%

(8) 区が発信する環境に関する情報やイベントの情報で、見たことがあるものを教えてください。(複数回答可)

項目	回答者数	構成比
あだち広報	17 人	71%
足立区公式 X (旧 Twitter)	13 人	54%
公共施設等での掲示物 (チラシやポスター)	10 人	42%
足立区公式 LINE	8 人	33%
足立区公式 Facebook	4 人	17%
地域の掲示板・回覧板	3 人	13%
足立区公式 Instagram ※令和 7 年 4 月 23 日から運用開始	0 人	0%
見たことがない	2 人	8%

(9) 地球温暖化と CO₂排出削減の考え方

ア 地球温暖化の原因が、大気中の二酸化炭素の増加といわれていることを知っていますか。

項目	回答者数	構成比
知っている	22 人	92%
聞いたことはある	2 人	8%
知らない	0 人	0%

イ 二酸化炭素の排出削減について、あなたの考えに近いものはどれですか。(複数回答可)

項目	回答者数	構成比
国や自治体が排出削減に取り組むべきである	14 人	58%
個人でも排出削減に取り組むべきである	13 人	54%
排出量の多少に係わらず、企業等は排出削減に取り組むべきである	12 人	50%
特に排出量の多い企業等が排出削減に取り組むべきである	10 人	42%
そもそも排出削減に取り組む必要性を感じない	3 人	13%
そのほか	1 人	4%

「そのほか」の意見（自由記述）

- ・火山活動などによる温暖化ガス排出が占める割合も多く、人為的に排出削減がコントロールできるのかよくわからない

(10) あなたが考える「環境に良い行動」はどんなことだと思いますか。(複数回答可)

項目	回答者数	構成比
食品ロスの削減に努めること	20 人	83%
ごみの削減に努めること	18 人	75%
省エネを心がけること	15 人	63%
再生可能エネルギー（太陽光発電など）を利用すること	14 人	58%
使い捨てプラスチック使用を控えること	9 人	38%
自家用車の使用を減らし公共交通機関を利用すること	8 人	33%
そのほか	2 人	8%

「そのほか」の意見（自由記述）

- ・資源のとりすぎなど現代の暮らしのあり方に関して鵜呑みにせず、在り方そのものを問い直すこと
- ・自然環境に対する好奇心や愛着のような感情を醸成すること

(11) あなたが実際に取り組んでいることを教えてください。(複数回答可)

項目	回答者数	構成比
エコバッグやマイボトルを使う	20人	83%
食品を無駄にしないよう心がける	18人	75%
ごみを分別して捨てる	16人	67%
節電に取り組む	14人	58%
水を大切に使う	12人	50%
使わなくなったものをリサイクルに出す	12人	50%
ごみを減らすよう心がける	11人	46%
自然の中で遊んだり、自然に係るイベント等に参加する	9人	38%
自家用車の利用を減らし、公共交通や自転車を利用する	4人	17%
植物を育てて緑を増やす	4人	17%
エコマークのついた商品など、環境に配慮した製品を使用する	3人	13%
地域のごみ拾いに参加する	2人	8%
そのほか	2人	8%
特になし	0人	0%
上記のなかで、子どもも一緒に取り組んだことがある	20人	83%

(12) 環境を守るための取り組みをすることで、どんな利点が得られると思いますか。(複数回答可)

項目	回答者数	構成比
環境保全に寄与していると思えることで、自分自身の満足度が高まるという利点	12人	50%
太陽光発電設備等の導入による電気代の削減などの、経済的な利点	12人	50%
住宅の高断熱化などによるヒートショックの予防などの、健康面での利点	9人	38%
地域の清掃活動などを行うことで同じ志の仲間ができたり、社会貢献ができる利点	3人	13%
そのほか	3人	13%

「そのほか」の意見（自由記述）

- ・ホモサピエンスの生存環境を維持していくことは、子孫のためになるし種の繁栄のために役立つ
- ・利点というより、人類が生存できる環境を維持していくためにはせざるを得ないことだと思う。資産の生存環境を守るため、というべきか

- (13) 地球の環境を守るために、地域や区全域で取り組むべきと思うことがあれば教えてください。(自由記述)

ア 廃棄物について
<ul style="list-style-type: none"> ・ごみの分別 ・ゴミの分別をもっと項目数を増やしてほしい。調べても載っていないゴミの種類がある ・不法投棄の厳罰化
イ 意識啓発や行動変容について
<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミゼロの日、やCO2ゼロの日、などを作って、みんなで一斉にこの日だけはそのテーマを取り組んでみるとかしたらどうか。皆んなでやることで、交流も生まれるし環境の事をやるのが恥ずかしいことではないと思えるかなと思う。 ・省エネすると経済的にいいとか損得勘定だけでなく、種全体の生存環境を保全していくことの必要性をきちんと流布していくべきと思う。足立の環境問題への意識啓発はなんとなくレベルが一段低いと感じる。
ウ 区への要望
<ul style="list-style-type: none"> ・バスの路線の再検討 ・区の広報誌、見る暇がないので見たことがないです。Twitterや公式LINE、Google検索等で必要な情報は目に入ります。そのままゴミ箱に捨てています。必要な人にだけ届くようにして、そこで削減された経費はエコ活動に回してもらえると大変ありがたいです。
エ その他
<ul style="list-style-type: none"> ・区民は個人レベルで生活の負担にならない取り組みを行い、区長と国会議員は立法府に掛け合えばよい。 ・「足立区がこれだけ頑張ったから地球の環境がこう良くなった！」と検証できないのだから、区の財政を使ってやることではないと思う。

3 若者（高校生・社会人など）からの回答

(1) 職業別回答者数

年代	回答者数	構成比	年代	回答者数	構成比
高校生	17人	68%	社会人	6人	24%
大学生等	1人	4%	その他	1人	4%
			合計	25人	100%

(2) 地球の環境について意識するのはどんなときですか。（複数回答可）

項目	回答者数	構成比
気象災害のニュースに触れたとき	17人	68%
猛暑日などが続いたとき	16人	64%
環境にまつわるテレビ番組等をみたとき	10人	40%
環境にまつわるイベント等に参加したとき	4人	16%
そのほか	2人	8%
意識したことがない	0人	0%

(3) 環境問題と言われたとき、思い浮かべるのはどんなことですか。（複数回答可）

項目	回答者数	構成比
地球温暖化	21人	84%
海ごみやマイクロプラスチックについて	15人	60%
ごみのポイ捨てや増加について	11人	44%
食品ロス	10人	40%
生物多様性（種の減少や絶滅）について	8人	32%
とくに思い浮かばない	0人	0%
そのほか	2人	8%

「そのほか」の意見（自由記述）

- ・自然災害
- ・発展途上国の医療環境

(4) 環境にやさしい行動をするため、少し不便になったりお金がかかったりする場合、あなたの考えに近いのはどれですか。（複数回答可）

項目	回答者数	構成比
やりたい気持ちはあるが、お金がかかることはできないと思う	13人	52%
少しの不便やお金がかかっても環境を守るためにやると思う	7人	28%
やりたい気持ちはあるが、不便なことは続けられないと思う	7人	28%
不便になったりお金がかかったりすることは、やりたくないと思う	4人	16%
そのほか	1人	4%

(5) 区が実施する環境に関するイベントに参加されたことはありますか。(複数回答可)

項目	回答者数	構成比
参加したことはない	20 人	80%
A-Festa 等の区のイベントで、環境に関する出展ブースに立ち寄ったことがある	2 人	8%
地域学習センター等で実施する、環境に関する講座やワークショップに参加したことがある	2 人	8%
屋外で実施する環境イベント(環境学習ツアー、自然体験デーなど)に参加したことがある	2 人	8%

(6) 区が発信する環境に関する情報やイベントの情報で、見たことがあるものを教えてください。(複数回答可)

項目	回答者数	構成比
公共施設等での掲示物(チラシやポスター)	10 人	40%
見たことがない	9 人	36%
あだち広報	9 人	36%
足立区公式 X (旧 Twitter)	8 人	32%
地域の掲示板・回覧板	4 人	16%
足立区公式 Instagram ※令和 7 年 4 月 23 日から運用開始	2 人	8%
足立区公式 LINE	1 人	4%
足立区公式 Facebook	1 人	4%

(7) 地球温暖化と CO₂排出削減の考え方

ア 地球温暖化の原因が、大気中の二酸化炭素の増加といわれていることを知っていますか。

項目	回答者数	構成比
知っている	23 人	92%
聞いたことはある	0 人	0%
知らない	2 人	8%

イ 二酸化炭素の排出削減について、あなたの考えに近いものはどれですか。(複数回答可)

項目	回答者数	構成比
個人でも排出削減に取り組むべきである	19 人	76%
国や自治体が排出削減に取り組むべきである	11 人	44%
特に排出量の多い企業等が排出削減に取り組むべきである	10 人	40%
排出量の多少に係わらず、企業等は排出削減に取り組むべきである	7 人	28%
そもそも排出削減に取り組む必要性を感じない	2 人	8%
そのほか	1 人	4%

- (8) 若い世代に環境に関する情報を伝えたり、実際に行動をしてもらいたい場合、どのような周知の方法や支援が効果的だと思いますか。(複数回答可)

項目	回答者数	構成比
家計の節約になるなど、経済的な利点に着目して発信する	16 人	64%
インフルエンサーが SNS で発信する	15 人	60%
具体的な取り組み方法を発信する	11 人	44%
取り組みに応じてポイントが貯まり、商品に交換できる	10 人	40%
取り組みに対して補助金を受けられる	8 人	32%
芸能人がテレビなどで発信する	5 人	20%
取り組んだことを区が広く紹介するなど、情報発信のサポートを受けられる	4 人	16%
そのほか	1 人	4%

- (9) あなたが考える「環境に良い行動」はどんなことだと思いますか。(複数回答可)

項目	回答者数	構成比
食品ロスの削減に努めること	18 人	72%
省エネを心がけること	15 人	60%
ごみの削減に努めること	14 人	56%
使い捨てプラスチック使用を控えること	13 人	52%
再生可能エネルギー（太陽光発電など）を利用すること	8 人	32%
自家用車の使用を減らし公共交通機関を利用すること	4 人	16%
そのほか	1 人	4%

「そのほか」の意見（自由記述）

- ・具体的な行動については思いつかないが、長期的に見た時にその行動が環境にいいかどうかを考えて行動に移す必要性を感じる。

(10) あなたが実際に取り組んでいることを教えてください。(複数回答可)

項目	回答者数	構成比
ごみを分別して捨てる	17人	68%
節電に取り組む	15人	60%
エコバッグやマイボトルを使う	14人	56%
食品を無駄にしないよう心がける	14人	56%
水を大切に使う	11人	44%
使わなくなったものをリサイクルに出す	3人	12%
植物を育てて緑を増やす	3人	12%
エコマークのついた商品など、環境に配慮した製品を使用する	3人	12%
特になし	3人	12%
地域のごみ拾いに参加する	2人	8%
自然の中で遊んだり、自然に係るイベント等に参加する	2人	8%
自家用車の利用を減らし、公共交通や自転車を利用する	1人	4%
ごみを減らすよう心がける	0人	0%
そのほか	0人	0%

(11) 環境を守るための取り組みをすることで、どんな利点が得られると思いますか。(複数回答可)

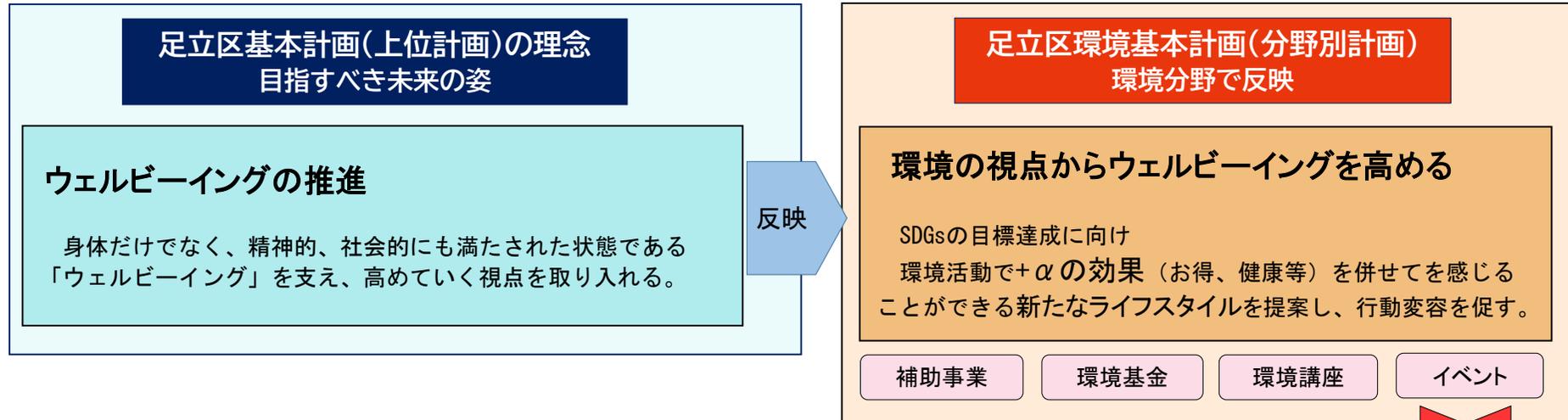
項目	回答者数	構成比
環境保全に寄与していると思えることで、自分自身の満足度が高まるという利点	16人	64%
太陽光発電設備等の導入による電気代の削減などの、経済的な利点	11人	44%
地域の清掃活動などを行うことで同じ志の仲間ができたり、社会貢献ができる利点	8人	32%
住宅の高断熱化などによるヒートショックの予防などの、健康面での利点	6人	24%
そのほか	2人	8%

(13) 地球の環境を守るために、地域や区全域で取り組むべきと思うことがあれば教えてください。(自由記述)

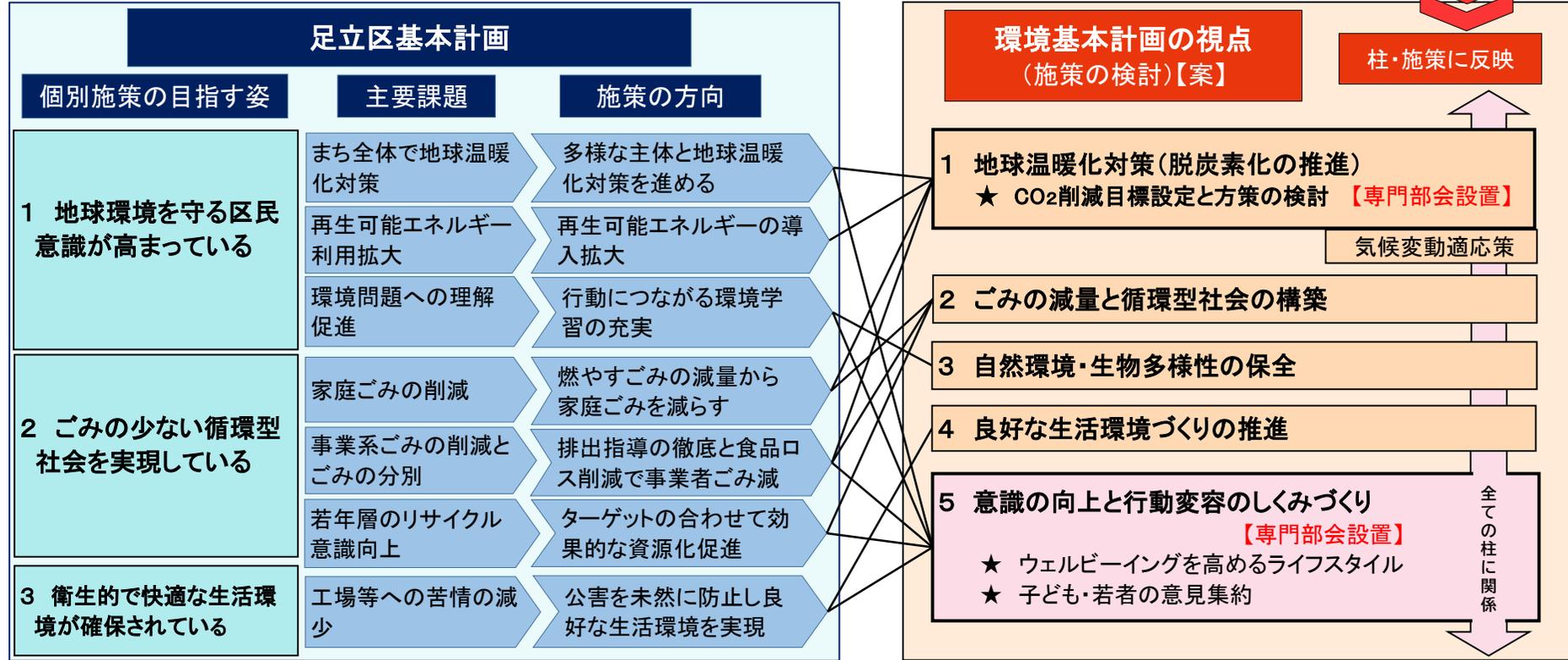
- ・ポイ捨てをお構いなしに行う外国人の取り締まり
- ・舎人公園周辺に住んでいますが、公園の周りの道路に停まっているトラックのポイ捨てや立ちションが酷すぎます。どんなにクリーンアップイベントや環境配慮を訴えても他の区から来る人が汚したりポイ捨てをしていたら意味がない気がします。
- ・緑化
- ・個人個人が環境問題を意識することによって経済的なメリットがあつたり地球温暖化によって生じるデメリットをもっと周知させて、他人事ではないということを伝えることが大切だと思った。
- ・まずはたくさんの人に環境についての考えを広めることやそこから詳しくどのようなことをすれば良いかどのような利点があるかを伝えることが大事だと思います。
- ・ゴミ箱を設置する

上位計画の理念を反映させた環境基本計画の策定

1 計画の理念を環境の視点で反映



2 目指す姿の実現に向けた環境基本計画の具体的な施策検討



環境基本計画策定スケジュール

